

第1 自然環境

1 位置

熊毛地域は、九州本土の最南端佐多岬から、南東方向約40km、南西方向約60kmの洋上にある種子島、屋久島、口永良部島、馬毛島の4島からなっています。

この地域は、南西に弧を描いて連なる日本列島約3,000kmの南西3分の1を形成する琉球弧（南西諸島）の最東北部に当たり、極位置は下表のとおりです。

■極位置

区分	地名	経度	緯度
極東	西之表市大川鼻	東経131° 5' 1"	北緯30° 46' 58"
極西	屋久島町野崎	東経130° 8' 35"	北緯30° 29' 23"
極南	屋久島町西開墾	東経130° 29' 43"	北緯30° 13' 35"
極北	西之表市喜志鹿崎	東経131° 3' 23"	北緯30° 50' 24"

資料：国土地理院

■本土間・島間の距離

区分	本土最南端佐多岬からの洋上最短距離	鹿児島市（鹿児島港）からの距離	
		航路距離	時間距離
種子島	40 km	西之表港まで 118 km	ジェットfoil 1時間35分 フェリー 3時間30分～3時間40分
屋久島	60 km	宮之浦港まで 135 km	ジェットfoil 1時間50分 ジェットfoil 2時間（指宿経由） ジェットfoil 3時間（種子島経由） フェリー 4時間

区分	島間洋上最短距離	航路距離		時間距離
		距離	発着港	
種子島⇔屋久島	18 km	55 km	西之表港⇔宮之浦港	ジェットfoil 50分 フェリー 2時間
		57 km	西之表港⇔安房港	ジェットfoil 50分～55分
		30 km	島間港⇔宮之浦港	フェリー 1時間5分
種子島⇔馬毛島	12 km	—	—	—
屋久島⇔口永良部島	12 km	45 km	宮之浦港⇔口永良部漁港	フェリー 1時間40分

資料：熊毛支庁総務企画課

2 土地

熊毛地域の総面積は 993.69k m²で、県土の 10.8%を占め、県の全離島（面積 1k m²以上。対本土架橋島を除く。）面積 2,495.38k m²の 39.8%を占めており、離島関係特別法が適用される我が国の有人離島※のうち、架橋により本土との往来ができる淡路島、天草下島を除くと、屋久島、種子島は、第 4 位、第 5 位の広さを有しています。

土地利用状況でみると、熊毛地域は林野面積が 73.0%と大部分を占め、次いで耕地面積が 9.7%となっています。

特に屋久島は林野面積の割合が高く 89.5%となっており、このうち 70.9%が国有林です。種子島も林野面積の割合が 53.3%と高く、次いで耕地面積が 19.2%となっています。

（※）離島振興法、奄美群島振興開発特別措置法、小笠原諸島振興開発特別措置法及び沖縄振興特別措置法が適用される有人の離島である。

■市町村別面積

区 分	面積 (k m ²)	県土に占める割合 (%)	備 考	
種子島	西之表市	205.66	2.2	馬毛島含む
	中種子町	137.18	1.5	
	南種子町	110.36	1.2	
	計	453.20	4.9	
屋久島	屋久島町	540.48	5.9	口永良部島含む
	計	540.48	5.9	
熊 毛 計	993.69	10.8		
県 計	9,187.08	100.0		

注) 市町村別面積には面積 1k m²未満の島しょも含む。

面積は国土地理院「令和元年全国都道府県市区町村別面積調(10/1)」による。

■他の有人離島との比較

順位	島名	面積 (k m ²)
1	佐渡島	854.79
2	奄美大島	712.41
3	対馬	695.74
※	淡路島	592.51
※	天草下島	574.95
4	屋久島	504.29
5	種子島	444.30
6	福江島	326.36
7	西表島	289.62
8	徳之島	247.85
(参考)	口永良部島	35.81
	馬毛島	8.17

注) ※印は、架橋により本土との往来が可能となっている島であり、面積の順位からは外してある。

・面積は国土地理院「令和元年全国都道府県市区町村別面積調(10/1)」による。

■土地利用状況

区分	種子島		屋久島		熊毛計		県計	
	面積 (ha)	構成比 (%)	面積 (ha)	構成比 (%)	面積 (ha)	構成比 (%)	面積 (ha)	構成比 (%)
総面積	45,320	100.0	54,048	100.0	99,368	100.0	918,702	100.0
耕地面積	8,690	19.2	975	1.8	9,665	9.7	116,000	12.6
田	1,830	4.0	148	0.3	1,978	2.0	36,700	4.0
畑	6,860	15.1	827	1.5	7,687	7.7	79,200	8.6
林野面積	24,146	53.3	48,377	89.5	72,523	73.0	590,461	64.3
国有林	3,335	7.4	38,296	70.9	41,631	41.9	152,373	16.6
民有林	20,810	45.9	10,081	18.7	30,891	31.1	438,089	47.7

注) 総面積：国土地理院「令和元年度全国都道府県市区町村別面積調査」

耕地面積：農林水産省「作物統計面積調査」(R2.2.28公表)

林野面積：令和元年度鹿児島県森林・林業統計

(注) 四捨五入の関係で総数と内訳の計は一致しない。

3 自然条件

種子島は、細長く平坦な島、屋久島は九州の最高峰宮之浦岳を持つ円形の山岳島です。この対照的な形状の違いは、両島の生い立ちの違いによるものであることが地質構造上明らかにされています。

この地域は、世界一の大きな海流である黒潮（年平均水温約 24℃）の影響により、気候は温暖多雨で、特に屋久島の山岳地帯では年間降水量は 8,000～10,000 mmにも達します。

気候区としては、青森県下北半島から九州の大半と山口県の一部を包含する太平洋型気候区（夏多雨，冬乾燥）の南端部にあつて、亜熱帯性気候の南西諸島気候区と接しており、境界地らしい亜熱帯性的気候が特色となっています。山岳島の屋久島では、亜熱帯から冷温帯までの気候を持っています。

動植物の分布上の境界線として専門家の多くの支持を得ている渡瀬ラインが、屋久島と奄美大島間の七島灘に東西に引かれていることや、屋久島において、海岸の亜熱帯植物帯から山上部の亜高山帯まで標高差による連続的変化が見られるなど、この地域の動植物層の豊富さは広く関係者の注目を集めており、世界自然遺産地域をはじめ、多くの優れた自然が存在しています。

（1）地形

ア 種子島

種子島は、北北東から南南西の方向に細長く伸びた中くびれの紡錘型の島で長さ 58 km，最大幅 12 km，最もくびれた中種子町野間付近の幅は 6 kmです。

基本的には海岸段丘の島で、およそ 8 kmにわたるくびれ部を境にして、北東部及び南西部は、海拔 200m前後の丘陵性の山地が連なり、最高点は 282mという平坦な島です。

島内の河川は、数は多いですが島の形状からいずれも矮小で水量も少なくなっています。これらの小河川沿いに平地が細長く発達し、島の南部海岸付近では沖積低地がかなり広がっています。

海岸は磯海岸の発達が見られ、小規模な海岸砂丘も存在します。南部では、海岸線の砂浜から急に絶壁となっている所が多く、熊野、竹崎、門倉岬などは景勝の地となっています。

イ 馬毛島

馬毛島は、西之表市の西方約 12 kmの海上に、種子島と平行する形で浮かぶ小島です。最高点 72mの極めて平坦な島で、水利には恵まれていません。

ウ 屋久島

屋久島は、海上に浮かぶ巨大な丸い陸塊で、全島ほぼ山地です。

中央部は九州最高峰の宮之浦岳（1,936m）をはじめ、永田岳（1,886m）黒味岳（1,831m）等の山群が奥岳を形成していますが、その面積は比較的小さく、また、中央部と海岸部との中間の大部分が 400m以上の大起伏山地となっているため、周辺の海岸から中央部の高峰を望むことはできません。

1,500m以上の山が20数座、1,000m以上は45座以上あり、洋上のアルプスと呼ばれています。

山麓は、永田から西回りで栗生にかけて直接海に落ち、近年まで道路の開設をはばんだ険しい山地を形成しています。今でも大型車両は通過できません。宮之浦から東回りで栗生にかけては、最大幅3kmに達する三日月形の海岸段丘が発達し、農業と生活の舞台となっています。

海岸は、ほとんど全島海食崖をなしており、特に西岸では標高100mを越える絶壁も珍しくありません。海食崖下に陸地があるときは、ほとんど全て磯を形成し、浜があっても岩盤の上にうすく砂礫の乗ったものが多く、砂浜は永田東方に若干発達しています。

河川は、島の中央部から放射状に流下し、流れの急な中小河川で、その数は140にも及びます。

エ 口永良部島

口永良部島は、西北西から東南東の方向に長軸をもつ瓢箪（ひょうたん）形をした火山島で、中央部のくびれた部分を境に、西部の古期火山群地域と東部の新期火山群地域に分けられます。

最高点は古岳の657mで、低地は海岸線の湾入部にわずかに見られるだけです。周囲の大部分は、幅の狭い磯に海食による急な崖が迫っています。

平成27年5月29日に新岳で爆発的噴火が発生し、気象庁の噴火警報（噴火警戒レベル5、避難）発表、屋久島町の「避難指示」発令に伴い、全員が島外へ避難しましたが同年10月21日の警戒範囲の縮小、平成28年6月14日の噴火警戒レベル5から3（入山規制）への引き下げを経て、同年10月25日に全ての避難指示が解除されました。

その後も噴火警戒レベルは2から4の間で推移しており、令和2年3月1日現在の噴火警戒レベルは3（入山規制）で、火口から概ね2kmの範囲では噴石及び火砕流に警戒が必要となっています。

■島別地勢

区 分	周囲 (km)	東西の距離 (km)	南北の距離 (km)	最高点	
				標高 (m)	名 称
種子島	165	22	55	282	花野峯 (注)
馬毛島	17	3	5	72	岳之越
屋久島	132	28	27	1,936	宮之浦岳
口永良部島	50	12	8	657	古岳

(注) 名称は中種子町字図による。

資料：国土地理院

■主要山岳標高

順位	岳名	標高 (m)	所在地
1	宮之浦岳	1,936	屋久島町
2	永田岳	1,886	屋久島町
3	栗生岳	1,867	屋久島町
4	翁岳	1,860	屋久島町
5	安房岳	1,847	屋久島町
6	黒味岳	1,831	屋久島町
7	投石岳	1,830	屋久島町
8	ネマチ	1,814	屋久島町
9	ジンネム高盤岳	1,734	屋久島町
10	高盤岳	1,711	屋久島町
(参考)	中岳 (九重連山)	1,791	大分県(九州本土最高峰)

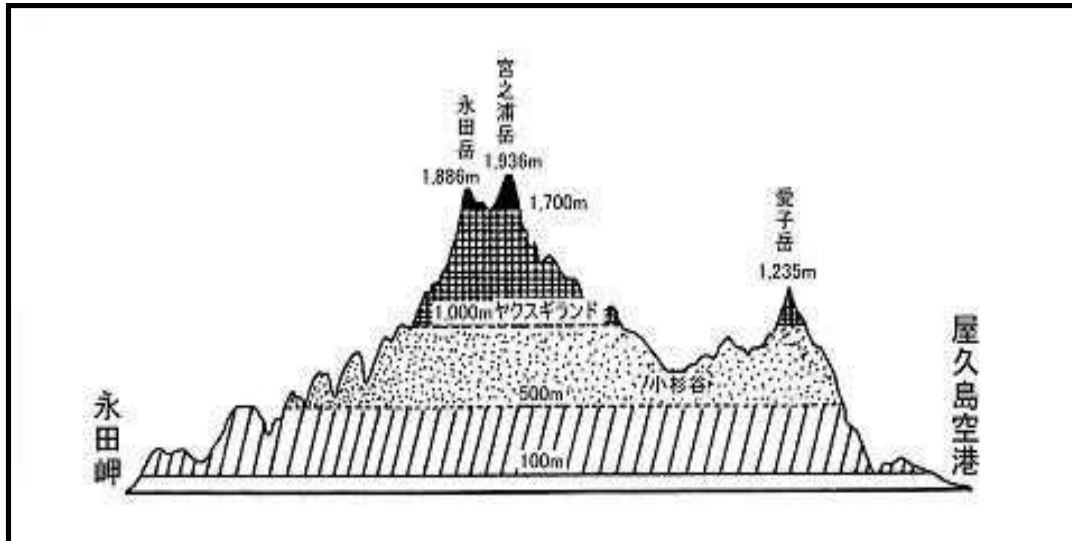
資料：国土地理院

■主要河川

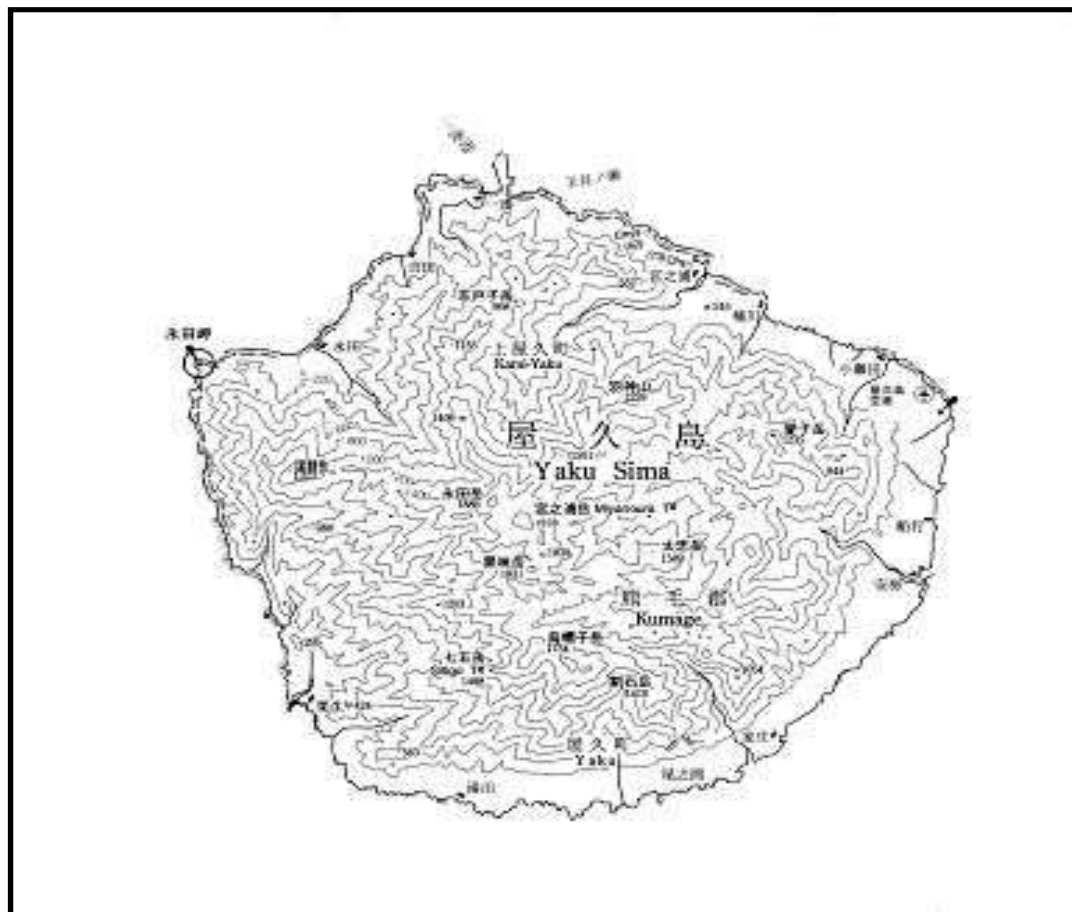
区分	河川名	流域及び 流末地	流路延長 (km)	区分	河川名	流域及び 流末地	流路延長 (km)
種子島	湊川	西之表市	8.0	屋久島	安房川	屋久島町	13.3
	甲女川	西之表市	7.5		宮之浦川	屋久島町	6.0
	郡川	南種子町	6.5		一湊川	屋久島町	4.0
	川脇川	西之表市	6.0		城之川	屋久島町	3.2
	鹿鳴川	南種子町	5.1		栗生川	屋久島町	3.0
	大浦川	南種子町	5.0		永田川	屋久島町	2.3
	西京川	西之表市	3.3				
	向井川	中種子町	3.2				
	苦浜川	中種子町	3.1				
	宮瀬川	南種子町	3.0				
	阿嶽川	中種子町	2.3				
	熊野川	中種子町	2.5				
古川川	南種子町	1.3					

資料：熊毛支庁建設課，屋久島事務所

■屋久島の断面図



■屋久島の等高線



資料：林務水産課

(2) 地質

ア 種子島

種子島の基盤を構成する最古の地層は古第三紀の熊毛（日向層群に対比されている）層群で、堅硬な頁岩、砂岩およびこれらの互層からなっています。これらの堆積岩は水深 200mより深い大陸斜面の海底に堆積したもので、種子島・屋久島地域の隆起によって、現在、私たちの目に触れるようになりました。熊毛（日向）層群は島の骨格をなして広く分布し、島の長軸の方向は、これらの地層群の走向とほぼ一致しています。

南種子南東部を中心とする地域では、熊毛（日向）層群を覆って新第三紀中新世の荃永層群が海拔高度 40~80mの丘陵を構成しています。下位から礫岩を主体とする田代層、泥岩を主体とする河内層、砂岩を主体とする大崎層が重なり、河内層は化石と堆積物から内湾の浅海域に堆積し、大崎層は外洋に面した沿岸浅海域に堆積したと考えられます。河内の河内層からおびただしい数のカキ化石が、生きていた当時の状態をとどめて（原地性）産出しました。カキのほかに、今もマングローブの泥底に棲息するウミニナ、ヘナタリなどの巻貝も多く産出しました。泥岩に挟在する砂岩には、潮間帯から潮下帯に棲息する底生動物の巣穴の化石も見られます。

さらにイシガメやスッポンの陸ガメ化石が見つかり、この時代の種子島は、大陸の縁辺部であったことを裏付けました。

このカキ礁と渚の化石は、南種子町教育委員会の努力で河内化石公園として残され、平成 23 年 4 月に、鹿児島県文化財（天然記念物）に指定されました。フィールド・ミュージアムのひとつの貴重な教材として、学校教育や生涯教育に活用されています。別の場所に分布する河内層の泥岩から新第三紀中新世中期の示準化石である突起を持った巻貝ビカリアが産出し、河内層の堆積した時期は、約 1600 万年前と報告されています。

これらの二つの層群を不整合に覆って、砂質部に富む増田層（形之山部層）や垂角礫を主体とする長谷層、粘土質砂からなる竹之川層といった第四紀更新世の堆積層が重なり、最上部には火山灰の風積したローム層が被覆しています。形之山部層は、1929 年に西之表市住吉形之山から産出した魚の化石の一種が「タネガシマニシン」の名で報告され、全国的に種子島の住吉化石が注目されました。1987 年、鹿屋高等学校の地学部員が地質巡検旅行で大型の獣骨化石を発見したことをきっかけに、翌年から 2 年間、大規模な発掘調査が行われ、ゾウ、シカ、魚、エビ、カニ、二枚貝や巻貝、カエル、植物など多くの化石が見つかりました。魚は内湾から汽水域に棲息する魚が多く、淡水魚のアユも含まれています。これらの化石は種子島開発総合センター（鉄砲館）と鹿児島大学総合研究博物館展示室で見ることができます。

土壌は、台地地域では 30 cm 程度、厚い所で 1 m にも達する腐植質火山灰土（黒ボク）が分布し、一部では約 7,300 年前（暦年代）に鬼界カルデラから噴出したアカホヤ火山灰層も見られます。最上部の火山灰層は九州本土からではなく、口永良部島の新岳のものと考えられています。丘陵地帯では、それらが流出して基盤岩やアカホヤ火山灰層が露出していますが、基盤岩の風化物に由来する褐色森林土や赤黄色土も広く分布しています。

沖積地帯に分布する土壌は灰色低地土やグライ土ですが、砂丘後背地や丘陵間の低地には泥炭土も比較的広く分布しています。

イ 馬毛島

馬毛島の地層は、種子島の基盤を成す熊毛（日向）層群で砂岩・頁岩互層がほとん

どを占め、島の長軸にあたる北北東－南南西の走向を示しています。

土壌は、赤黄色土が大部分で、北部、南部の海岸近くにアカホヤ火山灰層が、中央部、北端部のごく一部には黒ボクが分布しています。

ウ 屋久島

屋久島の基盤岩は、種子島と同じ砂岩、頁岩およびこれらの互層からなる古第三紀の熊毛（日向）層群と、その地層に貫入した花崗岩体から成り立っています。永久保の田代川河口付近に露出する熊毛（日向）層群には、深海の海底火山から噴出した枕状溶岩が挟まっています。新第三紀中新世に貫入し、地下深くで冷えて固まった花崗岩とそれを取り囲む熊毛（日向）層群は、その後隆起し、著しく侵食された結果、花崗岩体が島の中央部に露出し、北西部地域を除く沿岸地域に熊毛（日向）層群がリング状に分布することになりました。花崗岩の貫入の影響を強く受けた両者の境界付近は、接触変成作用によってタングステンなどの鉱床が生じています。島の隆起は今でも続いていることが、若い地層の高度分布から明らかになりました。

海岸砂丘の平坦面を形作って砂・泥を主体とする礫質砂層が分布し、安房西方、春牧付近では厚さ15mにも達しています。一部に火山岩や火山灰層などが認められます。

尾之間、平内、湯泊に温泉があり、泉質はアルカリ性単純温泉です。

島の周辺部の台地・丘陵地帯の土壌は、花崗岩や熊毛層群の基盤岩などに由来する赤黄色土や褐色森林土が広く分布し、北部と東部では黒ボクやアカホヤ火山灰層も広く分布しています。また、屋久島の山頂付近まで、約7,300年前に鬼界カルデラから噴出した幸屋火砕流堆積物が確認されました。

島中央部の山岳地帯の土壌は、標高により分布を異にしていますが、500～1,000mの温帯から暖帯への移行体の山腹部、150～600m付近の暖帯の直斜面および凹地に分布している適潤性褐色森林土で、山頂付近には岩山に囲まれた高山草原土も見られます。

エ 口永良部島

口永良部島は典型的な火山島で、屋久島とは距離は近いのですが、その成り立ちを全く異にしています。両者の間には、琉球列島を構成する地質構造帯の境界の一つが通っています。

本村、向江浜に泥・砂礫からなる現世の未固結堆積物が見られる他は、すべて火山岩が分布しています。

火山岩は火山砕屑物と溶岩に分けられます。火山砕屑物は溶岩とともに成層火山を構成するものと、表層に分布する火山灰、火山礫からなりますが、いずれも安山岩質です。

温泉の湧出点は多く、北海岸の寝待、湯向の硫化水素臭のある温泉と、本村1kmの食塩泉である西之湯温泉の3ヶ所が利用されています。

土壌は、山岳丘陵地帯には火山灰、火山岩に由来する黒ボクや褐色森林土が広く分布し、一部にアカホヤ火山灰層や岩石地が見られます。海岸の平坦な沖積地には、グライ土や泥炭土もわずかながら分布しています。

資料：鹿児島大学総合研究博物館

鹿児島大学理学部地球環境科学教室

■種子島の地質層序

時代		地層名	地層の厚さ (m)	層相			
新生代	第四紀	現世 - 1 万年前	沖積層		・旧砂丘砂層・河川堆積泥・砂・礫 ・現砂丘		
		更新世	ローム層	4.5	・火山灰・軽石		
			竹之川層	10	・赤褐色～茶褐色粘土砂を主とする。		
			長谷層	5	・砂岩の亜角礫を主とする(巨礫～細礫)		
		-170 万年前	増田層(形之山部層)	20～100	・淡褐色～茶褐色の細粒～中粒砂を主とし、偽層の発達した礫質部も見られる。形之山の本層は、魚、エビ、カニなどの海生動物と鹿、象などの陸生哺乳動物の化石を産出する。		
	第三紀	新第三紀	中新世	大崎層	700	・中粒～粗粒砂岩が主である。	
			-1600 万年前	茎永層群	河内層	320	・青灰色泥岩で、砂岩の薄層を挟む。
				田代層	430	・円磨された礫岩層	
		古第三紀	漸新世	熊毛(日向)層群	4,500	・暗灰色頁岩、塊状灰白色砂岩およびこれらの互層	
		始新世					

(3) 気象

平年値で見ると、年平均気温は種子島 19.6℃、屋久島 19.4℃で、亜熱帯気候に属しています。また、夏期（6月～8月）の日最高気温の平均は、種子島、屋久島共に 29.3℃で、鹿児島市の 30.7℃より 1.4℃低いのに対し、冬期（12月～2月）の日最低気温の平均は種子島 9.2℃、屋久島 9.5℃で鹿児島市の 5.7℃より 3.5～3.8℃も高く、寒暖の差が小さいことが特徴です。風は夏期を除いて北西の風が卓越し、年平均風速は種子島 6.0m/s、屋久島 5.2m/s です。また、年降水量合計は、種子島・鹿児島市では約 2,300mm ですが、屋久島では、その 2 倍近い約 4,500mm の降水量となっています。

ア 平年値、極値及び最近の気象

■種子島（種子島特別地域気象観測所 北緯 30° 43.2′，東経 130° 58.9′）

統計期間（平年値 1981 年～2010 年、極値 1948 年～2018 年）

区 分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
気温 ℃	平均	11.5	12.0	14.4	17.8	20.9	24.0	27.4	27.9	26.0	21.9	17.9	13.7	19.6
	平均(鹿児島市)	8.5	9.8	12.5	16.9	20.8	24.0	28.1	28.5	26.1	21.2	15.9	10.6	18.6
	日最高気温平均	14.1	14.9	17.4	20.8	23.7	27.2	30.1	30.6	28.9	24.8	20.6	16.6	22.5
	日最低気温平均	8.5	8.7	10.9	14.5	18.0	21.4	25.1	25.4	23.4	19.3	14.7	10.4	16.7
	日最高気温極値	24.4	25.6	26.9	28.1	30.6	32.7	34.9	35.9	34.1	31.3	28.8	27.2	35.9
	日最低気温極値	0.0	-0.6	2.1	4.5	10.6	15.2	17.5	20.6	14.9	10.3	4.5	2.6	-0.6
湿度 %	平均	64	67	70	72	76	82	80	77	77	71	68	65	73
	日最小極値	23	17	15	19	14	30	44	29	28	28	13	24	13
風向・ 風速 m/s	平均	7.3	7.9	7.1	6.0	5.5	5.1	5.7	4.6	4.6	4.7	5.7	7.3	6.0
	日最大風速極値	27.6	34.1	23.9	23.1	25.5	25.1	32.4	32.1	42.5	36.4	21.0	26.1	42.5
	同上風向	西北西	西	北西	西北西	西北西	西	西	西南西	西南西	南	北西	西南西	西南西
	日最大瞬間極値	34.3	47.2	33.6	31.7	32.2	40.4	49.5	45.7	60.0	43.4	33.0	34.9	60.0
	同上風向	北西	西	南西	西北西	北北東	北	西	東南東	南西	北	西南西	北西	南西
降水量 mm	月合計	89.2	113.0	173.6	210.7	231.7	455.4	217.6	199.5	273.3	166.5	132.1	82.3	2345.0
	月合計(鹿児島市)	77.5	112.1	179.7	204.6	221.2	452.3	318.9	223.0	210.8	101.9	92.4	71.3	2265.7
	日最大極値	158.5	218.5	139.5	151.6	229.0	317.0	368.0	228.0	340.5	334.0	253.0	194.5	368.0
	日最大1時間極値	70.7	51.0	37.2	62.5	78.6	85.5	89.8	87.8	126.0	76.0	103.5	57.0	126.0
	日最大10分間極値	18.5	16.5	16.0	22.5	22.5	27.5	25.3	23.5	30.5	20.0	20.0	22.5	30.5
日照時間(h)		102.5	113.3	126.7	150.6	152.6	144.9	229.3	219.5	164.0	156.0	133.3	111.3	1804.2
天気 日数	日降水量≥1.0mm	9.2	9.3	13.2	11.0	11.6	15.2	8.9	11.2	11.0	8.7	8.9	7.8	126.1
	日降水量≥10.0mm	3.3	3.3	6.3	5.9	5.9	9.5	4.7	4.7	5.5	3.9	3.6	2.5	59.1
	雪	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
	不照	4.3	4.3	6.7	5.0	4.9	6.3	1.8	1.3	2.4	3.0	4.4	3.6	47.9
	霧	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
	日最大風速≥10m/s	15.6	13.4	13.4	9.8	6.9	6.8	5.4	4.0	4.2	5.0	8.3	12.6	105.4

資料提供：鹿児島地方気象台

※ 湿度の日最小極値の統計期間は、1950（昭和 25）年からです。

※ 平均気温と月降水量合計については、鹿児島市（鹿児島地方気象台）のデータも参考として掲載しています。

■ 2018年の種子島の気象

区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
気温 ℃	平均	10.8	10.4	15.9	18.7	21.6	24.4	27.4	28.2	26.4	21.5	17.4	15.0	19.8
	平均(鹿児島市)	7.6	8.2	14.5	18.5	21.7	24.7	28.6	29.6	26.4	20.1	16.0	12.2	19.0
	日最高気温平均	13.3	13.3	19.1	22.4	24.8	27.2	30.4	31.2	29.1	24.6	21.4	17.8	22.9
	日最低気温平均	7.5	7.0	12.5	14.6	18.6	22.0	25.1	25.9	24.0	18.5	13.5	11.9	16.8
	日最高気温極値	19.7	19.2	23.3	26.1	28.7	31.2	32.9	33.2	31.4	29.1	25.4	26.7	33.2
	日最低気温極値	2.1	1.5	5.6	9.0	13.1	17.5	23.6	23.4	20.1	13.7	8.2	4.9	1.5
湿度 %	平均	68	71	73	73	80	87	88	85	86	72	78	73	78
	日最小極値	34	22	30	22	32	49	60	55	59	36	34	32	22
風向・ 風速 m/s	平均	7.6	6.5	5.7	5.4	5.2	4.6	4.3	4.7	5.1	5.3	3.4	6.4	5.4
	日最大極値	20.8	22.6	19.2	21.0	15.8	17.2	18.0	18.3	33.6	19.3	16.3	18.8	33.6
	同上風向	北西	西	西北西	北西	西	西	南	東北東	西北西	北西	北	北西	西北西
	日最大瞬間極値	27.4	30.1	28.5	28.7	24.4	24.7	26.7	28.9	47.4	23.3	21.9	24.9	47.4
	同上風向	北西	西	西	北西	東北東	西	南	東	東	北西	北	北北西	東
降水量 mm	月合計	149.5	114.0	147.5	121.5	307.5	587.0	236.5	73.0	459.5	94.0	119.0	87.0	2496.0
	月合計(鹿児島市)	96.0	97.5	158.5	121.5	342.5	339.5	436.5	46.0	368.5	53.5	92.0	245.0	2397.0
	日最大極値	41.5	21.0	55.5	37.5	113.0	141.0	61.0	15.0	124.5	33.5	28.5	21.0	141.0
	日最大1時間極値	14.0	18.5	16.5	17.0	17.5	30.5	30.0	10.0	48.0	12.5	18.5	8.5	48.0
	日最大10分間極値	8.5	12.5	5.0	9.5	6.5	13.0	12.0	6.5	15.0	10.5	6.0	5.0	15.0
日照時間(h)		115.4	94.2	162.9	209.0	163.8	109.7	190.5	228.0	140.6	192.1	165.6	97.2	1869.0
天気日数	日降水量≥1.0mm	9	12	8	6	12	16	15	13	20	7	10	9	137
	日降水量≥10.0mm	5	7	6	4	6	11	7	1	10	4	7	4	72
	雪	1)	2)	0)	0	0)	0	0	0	0	0)	0)	0)	3
	不照	2	6	6	2	5	6	3	0	3	2	4	7	46
	霧	0)	0)	0)	0	0)	0	0	0	0	0)	0)	0)	0
	日最大風速≥10m/s	21	16	13	14	12	9	6	6	11	10	4	20	142

資料提供：鹿児島地方気象台

※ 雪日数の年統計には、寒候年（前年8月1日から当年7月31日まで）を用いています。

※ 平均気温と月降水量合計については、鹿児島市（鹿児島地方気象台）のデータも参考として掲載しています。

※ 記号の説明

）：この記号を付した値は、許容範囲内で欠けています（準正常値）。

■屋久島（屋久島特別地域気象観測所 北緯 30° 23.1′，東経 130° 39.5′）

統計期間（平年値 1981 年～2010 年，極値 1937 年～2018 年）

区 分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
気温 ℃	平均	11.6	12.1	14.3	17.7	20.8	23.6	26.9	27.2	25.5	21.9	17.9	13.6	19.4
	平均(鹿児島市)	8.5	9.8	12.5	16.9	20.8	24.0	28.1	28.5	26.1	21.2	15.9	10.6	18.6
	日最高気温平均	14.4	15.2	17.5	21.1	24.3	26.8	30.4	30.6	28.7	24.9	20.9	16.6	22.6
	日最低気温平均	8.7	9.1	11.1	14.2	17.3	20.7	23.7	24.2	22.6	19.0	14.9	10.6	16.3
	日最高気温極値	25.3	26.1	29.6	29.8	31.9	34.8	35.2	35.4	34.7	31.3	30.7	26.6	35.4
	日最低気温極値	1.0	0.7	1.5	4.5	10.1	13.7	18.3	19.6	15.2	9.1	5.6	2.2	0.7
湿度 %	平均	68	68	71	72	76	83	82	81	79	73	70	68	74
	日最小極値	0	20	13	8	11	13	38	30	29	24	18	22	0
風向・ 風速 m/s	平均	6.6	5.9	6.3	5.9	4.7	3.9	3.2	4.0	4.8	5.5	5.9	6.3	5.2
	日最大風速極値	27.1	25.0	24.4	24.9	27.8	29.9	33.8	47.3	50.2	34.4	33.8	25.0	50.2
	同上風向	西南西	西南西	北東	西南西	北北東	南西	北東	東北東	東北東	西南西	北東	北東	東北東
	日最大瞬間極値	42.0	41.4	35.6	38.0	35.6	40.0	54.3	61.2	68.5	54.2	38.0	38.1	68.5
	同上風向	南西	南西	北北東	西南西	西南西	西南西	東南東	東北東	東北東	南南西	北東	南西	東北東
降水量 mm	月合計	272.9	286.7	428.1	421.7	441.0	773.6	311.9	269.0	406.1	299.6	303.9	262.7	4477.2
	月合計(鹿児島市)	77.5	112.1	179.7	204.6	221.2	452.3	318.9	223.0	210.8	101.9	92.4	71.3	2265.7
	日最大極値	227.5	271.5	334.5	285.5	419.0	436.5	317.0	557.3	427.8	340.3	261.5	191.1	557.3
	日最大1時間極値	74.0	57.1	100.5	102.0	125.0	122.0	93.5	100.0	117.5	86.1	110.5	92.5	125.0
	日最大10分間極値	28.5	16.6	23.5	27.5	31.5	27.1	21.5	28.0	28.5	27.8	31.0	26.5	31.5
日照時間(h)		73.7	79.1	107.0	137.9	151.8	115.8	220.8	201.3	145.0	119.9	96.0	84.2	1530.5
天気日数	日降水量≥1.0mm	16.0	13.6	16.8	13.0	13.1	16.7	11.0	12.7	13.0	11.2	11.8	13.9	162.8
	日降水量≥10.0mm	7.4	6.6	9.8	7.8	7.9	11.1	6.4	5.6	7.8	6.0	6.2	7.1	89.9
	雪	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
	不照	6.9	6.5	8.4	6.0	6.4	7.4	2.2	1.9	3.4	5.6	6.3	6.1	67.2
	霧	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
	日最大風速≥10m/s	14.2	12.3	12.2	7.6	4.1	2.2	1.7	2.9	3.4	5.3	8.4	12.0	87.1

資料提供：鹿児島地方気象台

※ 湿度の日最小極値の統計期間は、1950（昭和 25）年からです。

※ 平均気温と月降水量合計については、鹿児島市（鹿児島地方気象台）のデータも参考として掲載しています。

■ 2018年の屋久島の気象

区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
気温 ℃	平均	11.1	10.5	16.0	18.4	21.5	24.2	27.0	27.6	25.8	21.3	17.8	15.3	19.7
	平均(鹿児島市)	7.6	8.2	14.5	18.5	21.7	24.7	28.6	29.6	26.4	20.1	16.0	12.2	19.0
	日最高気温平均	13.9	13.4	19.4	22.3	24.9	27.1	29.8	30.2	28.9	24.5	21.2	18.0	22.8
	日最低気温平均	8.6	7.4	12.5	14.5	18.3	21.8	24.6	25.2	23.2	18.0	14.2	12.7	16.8
	日最高気温極値	20.6	18.9	23.7	25.3	30.0	31.0	32.2	32.3	33.1	31.0	25.2	26.6	33.1
	日最低気温極値	2.5	1.7	7.4	8.2	10.7	16.8	23.1	22.5	21.0	12.3	10.5	5.7	1.7
湿度 %	平均	68	71	69	71	78	86	87	90)	87)	73)	77	76	78
	日最小極値	38	26	26	30	35	50	56	59)	45)	40)	42	41	26
風向・ 風速 m/s	平均	6.4	5.9	5.0	4.6	4.3	3.7	4.3	4.6	4.6	4.8	4.1	6.2	4.9
	日最大極値	14.8	15.8	19.6	15.5	18.6	13.2	14.8	23.9	31.7	12.7	14.9	16.7	31.7
	同上風向	北西	北	北北東	北西	北東	北西	南南東	東	東	北西	北西	北	東
	日最大瞬間極値	22.1	25.2	24.7	23.1	22.6	22.6	25.2	34.0	44.8	22.6	21.1	22.1	44.8
同上風向	北西	南南西	北北東	北北西	北東	北西	南南東	東	東南東	南南東	北西	北	東南東	
降水量 mm	月合計	268.5	268.0	236.5	273.5	524.5	1080.0	384.0	214.5	707.0	164.5	215.5	207.5	4544.0
	月合計(鹿児島市)	96.0	97.5	158.5	121.5	342.5	339.5	436.5	46.0	368.5	53.5	92.0	245.0	2397.0
	日最大極値	39.5	61.0	63.0	162.5	146.5	267.5	151.5	96.5	100.0	72.5	66.0	61.0	267.5
	日最大1時間極値	17.5	19.0	20.5	27.0	38.5	57.5	50.5	34.0	43.5	12.5	23.0	11.5	57.5
	日最大10分間極値	5.5	5.0	6.0	8.0	10.0	15.5	16.5	16.5	16.0	8.0	6.5	5.0	16.5
日照時間(h)		62.4	69.2	145.3	196.7	137.4	103.7	179.6	198.7	123.9	150.6	136.3	55.4	1559.2
天気 日数	日降水量≥1.0mm	13	14	11	8	14	20	14	16	20	8	11	21	170
	日降水量≥10.0mm	9	8	5	5	10	10	9	6	12	5	7	6	92
	雪	2)	4)	0)	0]	0]	0]	0)	0]	0)	0]	0)	0)	6]
	不照	6	11	5	2	7	11	4	2	6	3	6	10	73
	霧	0)	0)	0)	0]	0]	0]	0)	1]	0)	0]	0)	0)	1]
	日最大風速≥10m/s	20	19	12	10	7	5	6	4	10	9	9	17	128

資料提供：鹿児島地方気象台

※ 雪日数の年統計には、寒候年（前年8月1日から当年7月31日まで）を用いています。

※ 平均気温と月降水量合計については、鹿児島市（鹿児島地方気象台）のデータも参考として掲載しています。

※ 記号の説明

) : この記号を付した値は、許容範囲内で欠けています（準正常値）。

] : この記号を付した値は、許容範囲を超えて欠けています（資料不足値）。

イ 梅雨の状況

降水量の単位：[mm]

年	梅雨入り (頃)	梅雨明け (頃)	6月、7月の 月降水量の合計		年	梅雨入り (頃)	梅雨明け (頃)	6月、7月の 月降水量の合計	
			種子島	屋久島				種子島	屋久島
1951年	5月26日	7月21日	886.9	994.3	1978年	6月3日	7月3日	376.0	703.5
1952年	6月14日	7月16日	867.5	1269.0	1979年	6月6日	7月22日	634.0	828.5
1953年	5月22日	7月22日	593.7	1090.5	1980年	5月30日	7月18日	774.0	866.0
1954年	5月13日	8月1日	1240.8	1399.3	1981年	5月27日	7月11日	289.0	385.5
1955年	5月28日	6月24日	711.8	1163.8	1982年	5月29日	7月27日	379.5	986.5
1956年	5月1日	7月13日	447.5	625.2	1983年	6月3日	7月21日	591.5	826.0
1957年	6月21日	8月8日	746.7	728.0	1984年	5月31日	7月3日	598.5	970.0
1958年	6月6日	7月9日	164.5	274.2	1985年	5月29日	7月6日	386.0	1249.5
1959年	6月4日	7月21日	802.0	991.4	1986年	6月5日	7月19日	270.5	580.0
1960年	5月24日	7月10日	487.5	798.8	1987年	6月2日	7月25日	488.5	1022.5
1961年	6月2日	7月10日	381.4	668.7	1988年	6月1日	7月5日	592.5	1150.5
1962年	6月2日	7月20日	879.2	1038.5	1989年	6月5日	7月14日	675.5	902.5
1963年	5月28日	7月12日	308.2	513.0	1990年	5月30日	7月7日	613.5	977.0
1964年	6月10日	7月1日	653.7	491.5	1991年	5月19日	7月9日	641.0	934.0
1965年	6月9日	7月7日	479.8	693.1	1992年	6月5日	7月20日	1054.0	1330.5
1966年	5月31日	7月14日	431.4	540.2	1993年	5月17日	-月-日	935.0	1612.0
1967年	6月18日	7月14日	405.2	563.7	1994年	5月25日	7月1日	595.0	912.5
1968年	6月12日	7月16日	1049.0	1501.0	1995年	5月25日	7月7日	1127.0	1522.5
1969年	6月17日	7月15日	525.5	510.0	1996年	5月27日	7月13日	644.0	899.5
1970年	6月10日	7月15日	493.5	946.5	1997年	6月2日	7月20日	477.0	690.5
1971年	5月22日	7月25日	716.0	818.0	1998年	5月28日	7月1日	907.0	1533.0
1972年	6月2日	7月15日	661.0	955.0	1999年	6月2日	7月23日	1243.0	1803.0
1973年	5月26日	7月5日	536.5	923.5	2000年	5月26日	7月15日	647.5	1326.0
1974年	5月14日	7月18日	258.5	764.5	2001年	5月21日	7月20日	424.5	628.5
1975年	6月4日	7月14日	502.0	1110.5	2002年	6月10日	7月21日	1041.5	1475.5
1976年	5月19日	7月16日	641.5	1060.5	2003年	6月9日	7月22日	821.0	1003.0
1977年	5月26日	7月4日	634.0	1015.0	2004年	5月29日	7月11日	479.0	770.5
					2005年	6月11日	7月15日	609.5	1307.0
					2006年	5月26日	7月25日	544.5	1227.0
					2007年	6月1日	7月18日	834.0	1149.5
					2008年	5月28日	7月6日	636.0	1110.5
					2009年	6月2日	7月12日	296.0	471.5
					2010年	6月12日	7月20日	1349.0	1809.5
					2011年	5月23日	7月8日	920.5	1027.0
					2012年	5月30日	7月23日	680.0	1515.5
					2013年	5月27日	7月8日	416.0	808.5
					2014年	6月2日	7月16日	938.0	1456.5
					2015年	6月2日	7月14日	1726.0	1953.0
					2016年	5月24日	7月18日	982.0	960.0
					2017年	6月6日	7月13日	902.0	1103.0
					2018年	6月5日	7月9日	823.5	1464.0
					2019年	5月31日	7月24日	535.0	1032.0
					平年値	5月31日	7月14日	673.0	1085.5

※ 梅雨の「入り・明け」には、平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「日頃」と表現しています。

※ 1993年の梅雨明けは、特定できませんでした。

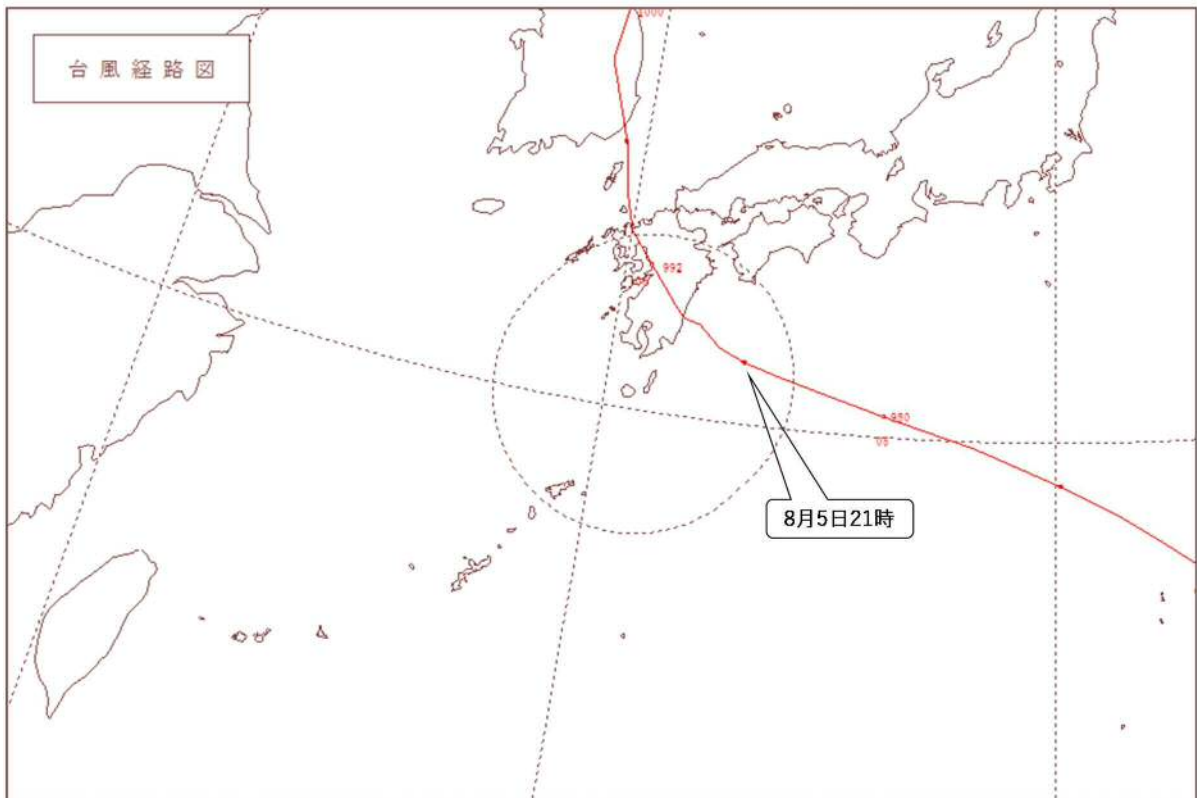
※) : 品質に軽微な問題があるか、または統計値を求める対象となる資料の一部が許容する範囲内で欠けている場合。(準正常値)

※ 平年の梅雨入り、梅雨明けは、1981年～2010年の平均です。

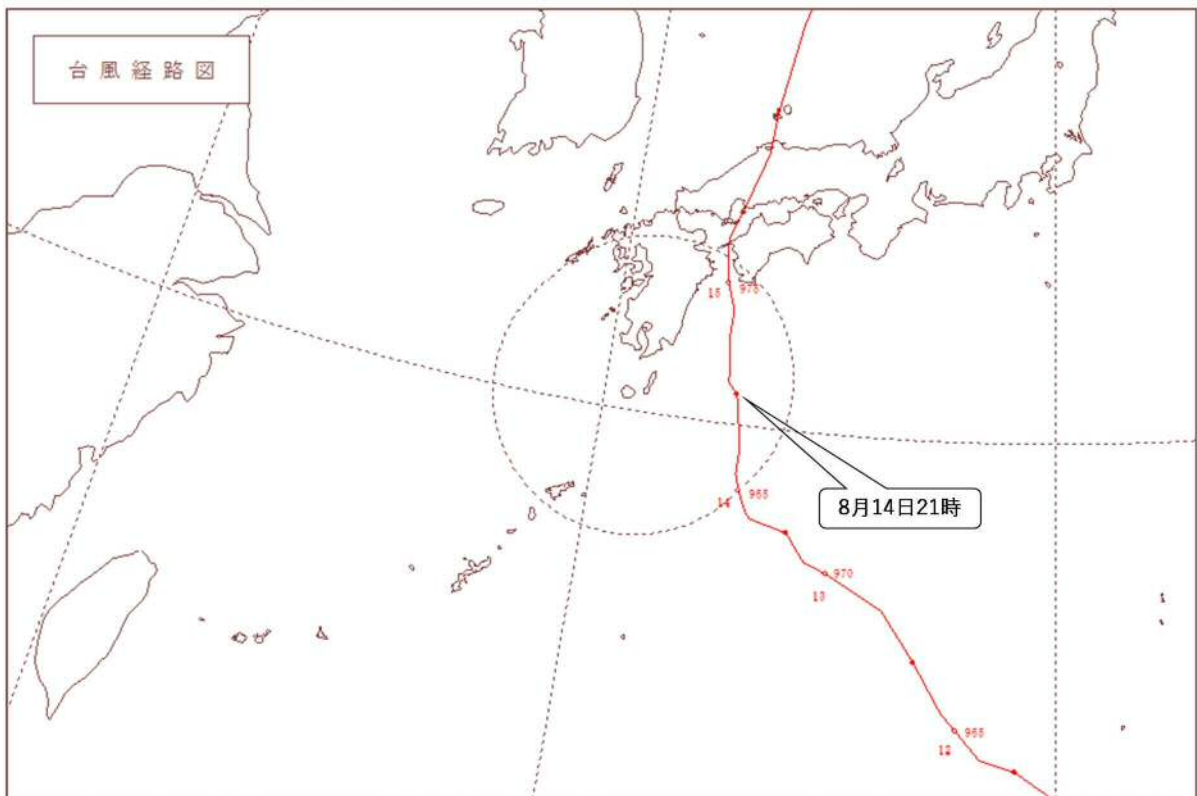
資料提供：鹿児島地方気象台

ウ 種子島・屋久島地方へ接近した台風（300 km以内の域内）

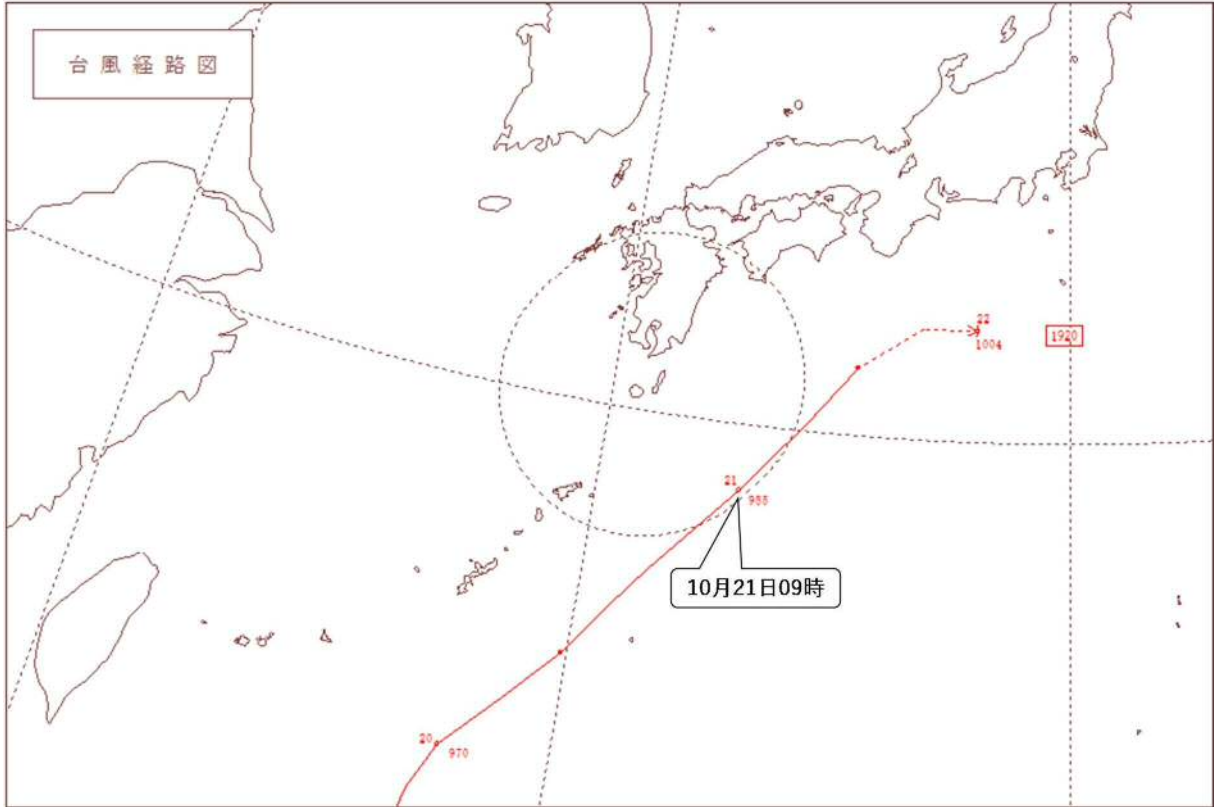
台風経路図 2019年 台風第8号



台風経路図 2019年 台風第10号



台風経路図 2019年 台風第20号



資料提供：鹿児島地方気象台

極値表（種子島特別地域気象観測所、屋久島特別地域気象観測所）

台風番号	台風名	発生期間	最低中心気圧 (hPa)	最低海面気圧 (hPa)	最大風速 (m/s)	最大瞬間風速 (m/s)	日降水量 (mm)
				起日時	風向 起日時	風向 起日時	起日
第8号	FRANCISCO (フランシスコ)	8. 2 ~8. 7	970	種子島特別地域気象観測所における観測値			
				998. 9	14. 1	17. 7	1. 0
				6日02時54分	西南西 6日06時30分	南西 6日06時15分	5日
				屋久島特別地域気象観測所における観測値			
				1000. 3	9. 4	14. 9	5. 5
				6日04時41分	西北西 5日22時45分	北西 5日22時37分	6日
第10号	KROSA (クローサ)	8. 6 ~8. 16	965	種子島特別地域気象観測所における観測値			
				978. 0	21. 7	27. 7	106. 0
				14日20時08分	北西 14日20時18分	北西 14日20時09分	14日
				屋久島特別地域気象観測所における観測値			
				980. 1	19. 9	26. 2	99. 5
				14日20時08分	北北東 14日02時33分	北北東 14日01時16分	14日
第20号	NEOGURI (ノグリー)	10. 17 ~10. 21	970	種子島特別地域気象観測所における観測値			
				1008. 9	9. 9	14. 9	25. 5
				21日07時29分	北北東 21日12時07分	北北東 21日12時03分	21日
				屋久島特別地域気象観測所における観測値			
				1009. 5	11. 6	15. 4	6. 0
				21日06時52分	北北東 21日09時36分	北北東 21日09時31分	21日

資料提供：鹿児島地方気象台

※ 接近：台風の中心が、種子島・屋久島のいずれかの「特別地域気象観測所」から 300 km以内の域内に入ること。

(4) 海洋

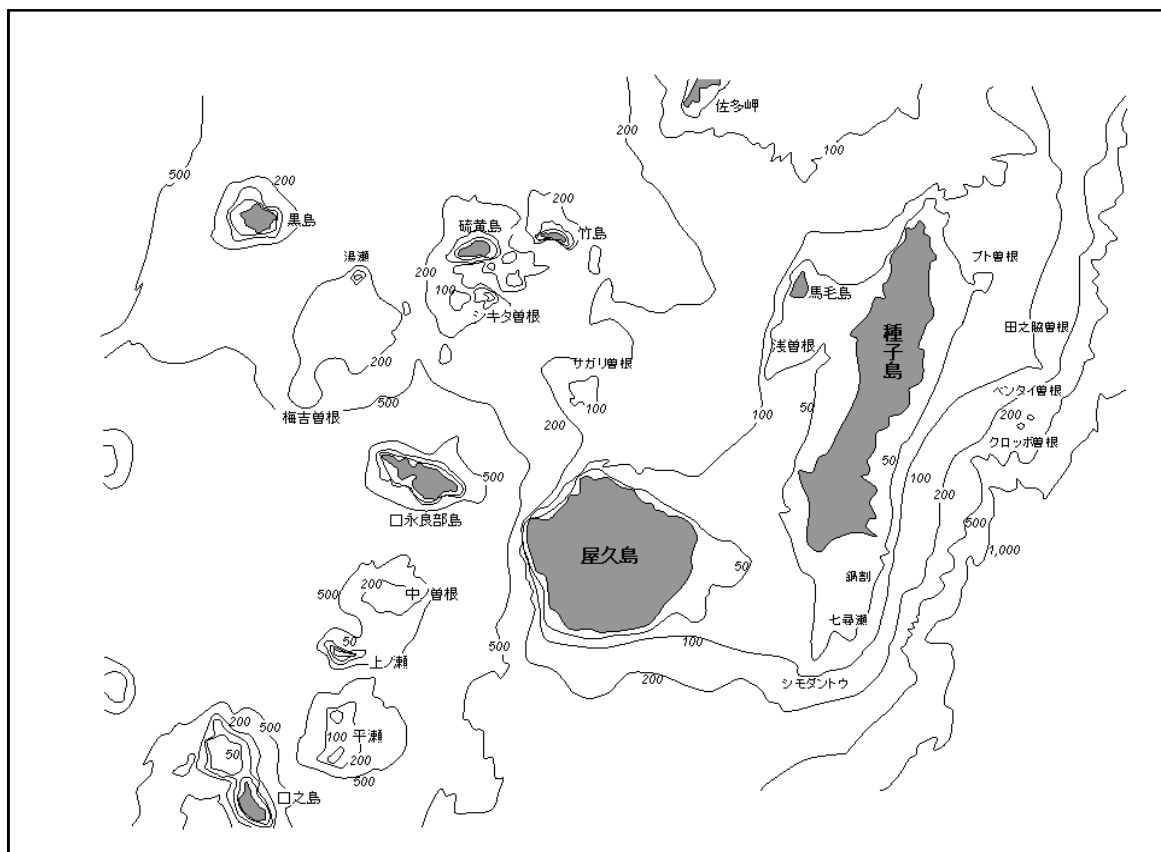
ア 海底地底

熊毛海域は、100m以浅の海底が大隅半島から種子島を経て屋久島まで続いています。種子島の東方は陸岸より20 km前後離れた辺りから急激に深くなって南西諸島海溝に続いています。

また、屋久島の西岸も水深600mまで急激に深くなっていますが、口永良部島から竹島、硫黄島にかけてはカルデラ地形となっており、複雑に入り組んでいます。

このため、魚が多く集まり好漁場となる海底が隆起した曾根が多く見られます。

■熊毛地域の海底地形



イ 底質

熊毛海域の底質は、広く砂質で覆われています。

種子島と屋久島の南西部には、粒径の大きい、礫質の海底が形成されています。

また、種子島東部から南部および屋久島西部から北部には岩が多く見られます。

ウ 海流

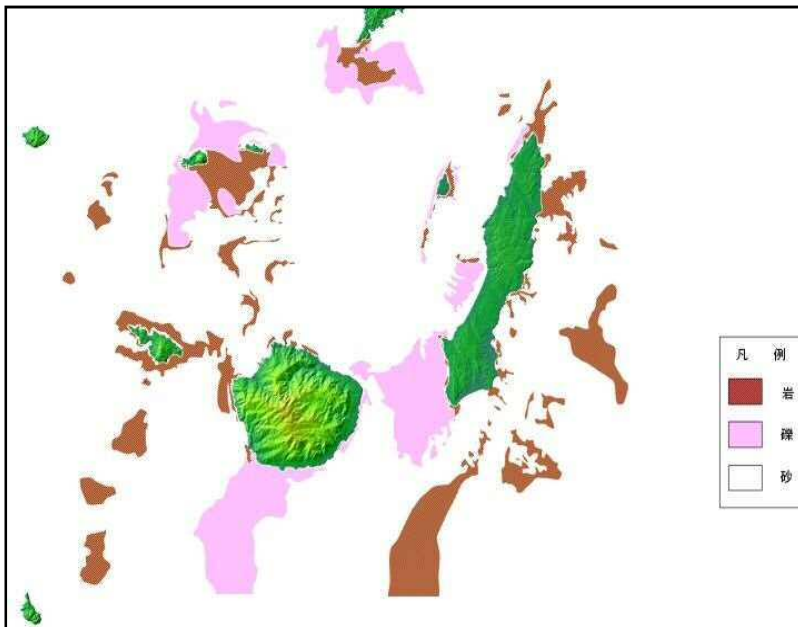
熊毛海域は、屋久島の南から種子島の東にかけて黒潮が流れているため、この黒潮の影響を受けやすいことが特徴となっています。

黒潮の北縁域は、屋久島の南端付近を中心に変動していますが、北上時には佐多岬付近（接岸状態）まで達し、南下時には中之島付近（離岸状態）となることもあります。

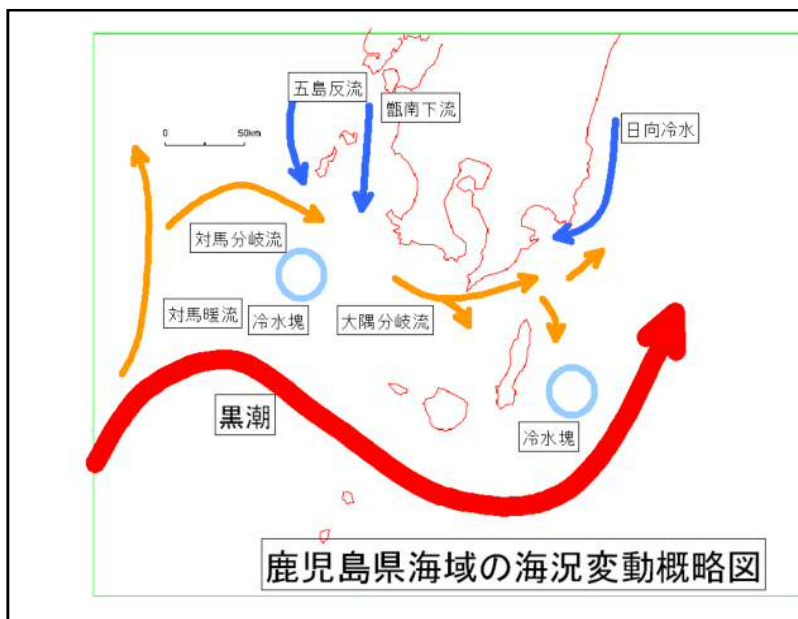
このため、この海域は、黒潮の接岸時は高水温の黒潮系水の流入が見られ、離岸時には低水温の沿岸系水で覆われます。また、数日間で黒潮北縁域が50～60マイル程度移動する場合もあり、3～4度の水温変化が起きるなど海況変化が激しくなっています。

このように、この海域は、沿岸水と黒潮流域との潮境に渦流が常時発生又は発生しやすい海域です。また、種子島海峡の中央部では、かなり早い南下流が観測されています。

■海底地質



■海流模式図



(5) 優れた自然

区分	件名 (所在地)	特 性
地 形	馬毛島と周辺の海 (西之表市)	<ul style="list-style-type: none"> 熊毛層群とその上位にある増田層群からなる平坦な島 海中には希少なサンゴ、海藻、熱帯魚が豊富で、磯には貝類が多い。 開発で地形の改変が進んでいる。
	ちくら いわや 千座の岩屋 (南種子町)	<ul style="list-style-type: none"> 浜田海岸にある大海蝕洞で洞内に1,000人の座敷を作れるほど広いという意味 茎永層群が風化や浸食を受けてできたもの。 硬い部分が奇岩、奇礁として残り、景勝の地となっている。
	宝満の池 (南種子町)	<ul style="list-style-type: none"> 種子島では数少ない淡水海跡湖 池の東畔には赤米で有名な宝満神社が祭られ、水鳥が生息するなど自然環境が保たれている。
	門倉岬からの景観 (南種子町)	<ul style="list-style-type: none"> 種子島最南端の岬で、先端部は高さ40mほどの海食崖 海に向かって右手に屋久島、左手の眼下には白砂青松の海岸が続き、その先には、種子島宇宙センターを望む。
	屋久島からの総合的景観 (屋久島町)	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ円形の山岳島。縁辺部は亜熱帯で日本有数の多雨地域である。 内部山地は九州最高峰宮之浦岳をはじめとする1,000mを越える高峰が連座し、急峻な山峰や深い渓谷が複雑に形づくられている。 冬季には山岳部(奥岳)に積雪も見られる。屋久杉を象徴とする原生林やヤクシカ、ヤクシマザルなどの動物相や水と山岳の景観は見事である。
	口永良部島 (屋久島町)	<ul style="list-style-type: none"> 火山島で活動がかなり活発 平成27年5月に発生した爆発的な噴火により、一時全島避難していたが、現在は平穏な日々を取り戻しつつある。 国の天然記念物に指定されているエラブオオコウモリの生息地
地 質	熊毛層群の貝化石 (中種子町, 南種子町)	<ul style="list-style-type: none"> 古第三紀の二枚貝2種、巻貝1種(全部で7個体)が発見されている。種の決定は困難だが北部九州産と近縁のものもある。
	茎永層群の貝化石 (中種子町, 南種子町)	<ul style="list-style-type: none"> 約1500万年前、海が陸域へ侵入していく過程を示す海生生物の化石 最大の特徴は、熱帯ないし亜熱帯性巻貝ウイカリア属を含み、その分布は種子島が国内最南端
	種子島の枕状溶岩 (南種子町)	<ul style="list-style-type: none"> 熊毛層群中に見られる溶岩流。水中に流れ込んだ溶岩が短時間に冷却、固化する際に形成される。上立石海岸の一角におよそ100㎡に渡って確認される。
	屋久島花崗岩と正長石 (屋久島町)	<ul style="list-style-type: none"> 九州最高峰にもなる屋久島の山岳は、屋久島花崗岩からなる。その特徴は正長石の巨大な結晶(平均6cm,中には15cm程になる)が含まれているものもある。
	屋久島町のタングステン 鉱床(屋久島町)	<ul style="list-style-type: none"> 鉱床は花崗岩の縁辺部や堆積岩の石英脈群にあり、現在は採掘されてはいないが、昭和60年頃、一部で金を対象に坑道探鉱が行われた。
	屋久島町の枕状溶岩 (屋久島町)	<ul style="list-style-type: none"> 日向層群の船行累層中に見られる溶岩流。水中に流れ込んだ溶岩が短時間に冷却、固化する際に形成される。田代川河口にある。
	おおこ 大川の滝 (屋久島町)	<ul style="list-style-type: none"> 落差88m、滝口幅5m、滝周長30mの九州では最も大きな滝の一つ。滝の大部分は、日向層群の頁岩や砂岩を原石とするホルンフェルスからなる。日本の滝百選の一つ。
平内海中温泉, 湯泊温泉 (屋久島町)	<ul style="list-style-type: none"> 海岸の日向層群に属する頁岩優勢の岩間から自然湧出する歴史の古い天然露天温泉 平内海中温泉は満潮時には海中に没し、干潮時にしか入浴できない珍しい温泉 	

区分	件名（所在地）	特 性
植物	喜志鹿崎の植生 （西之表市）	・ 常に強い海風の影響を受けるため、マルバニッケイなどの風衝性硬葉低木林やリュウキュウチク林が多い。ゲンケイチクも自生する。
	浦田のヤッコソウ （西之表市）	・ 昔から保護されてきた極相林。シイの大木の根に寄生しているヤッコソウの自生地としても貴重
	湊のマングローブ （西之表市）	・ 大規模な自然群落として最北端に位置し、メヒルギ1種で構成されている。ハマジンチョウ、ハマナツメも混生
	ツキイゲ群落 （西之表市）	・ ツキイゲは熱帯アジアから亜熱帯にかけて分布する砂丘植生を代表する。島内での自生は、西之表市花里浜の群落のみ（北限）
	甲女川流域の森林植生 （西之表市）	・ スダジイ群落が発達し、急傾斜地は極相状態にある。
	古田、安城の森林植生 （西之表市）	・ 種子島のスダジイ林の典型的な林相をしている。かつてはヤクタネゴヨウの大木が自生していた。アカガシやイチイガシ、ラン類も自生
	国上太田のヘゴ自生群落 （西之表市）	・ 小川の流域約1kmに自生する、他に例を見ない大群落地。周辺の自然環境も豊か。
	阿嶽川のマングローブ （中種子町）	・ 塩沼地にメヒルギだけが発達する群落と、河口付近にハマジンチョウを含む混生群落がある。
	竹崎の植生 （南種子町）	・ 貧栄養地にウバメガシ群落が発達している。高木層はクロマツで覆われているが、ウバメガシ群落との種組成的な相違は見られない。 ・ 海岸砂丘地にはコウボウムギ、ハマグルマなどが生育し、砂丘植生を形成している。
	宝満神社一帯の植生 （南種子町）	・ 高木林群落はスダジイ～タブ優占群落で下層にモクダチバナ、ヤブツバキ、トベラなどが生育している。 ・ 南の砂丘地はヒメユズリハなどの亜高木林や低木林で海岸一帯の砂丘植生へと推移している。
	本村海岸の植生 （南種子町）	・ 汀線帯に沿って、ハマグルマなどの草本性の植生が発達し、続いてアキグミ、シャリンバイなどの広葉低木群落となり、クロマツ群落から最内陸帯のタブ～マテバシイ群落となっている。
	志戸子のガジュマルーハマビワ林 （屋久島町）	・ 数本の巨大なガジュマルと低木層の優占種であるハマビワからなる。ガジュマルは多くの気根を下垂し、それが接地して太くなっているものが見られる。
	一湊川・白川のヤクシマカワゴロモ生育地 （屋久島町）	・ 常に水につかっている岩の表面に見られ、自然状態の川が残っている部分に点在する。一湊川・白川にかかる旧道の橋付近から下流は感潮点付近の範囲で、国の天然記念物に指定されている。
	屋久島国割岳斜面の照葉樹林 （屋久島町）	・ 西側斜面の乾燥が強い1,000m以下に見られる。また、瀬切川流域の南斜面は、乾燥森林の上部を越えると多湿域に入り、800mからスギが多くなる。 ・ 800m以下の瀬切川流域（右岸）はイスノキ林でスギ林を経て、奥岳のヤクシマダケ～ヤクシマシャクナゲ群落へと接続し海岸部から連続して自然植生の垂直分布帯が見られる日本唯一の地
	ヤクタネゴヨウ （種子島、屋久島）	・ マツ科の日本固有種。種子島に300本程度、屋久島に2,000本程度残っている。 ・ 屋久島の瀬切川入口の右岸の稜線に残存林が点在している。幼樹や実生はほとんど認められず、絶滅が心配されている。
	スギ原生林 （屋久島町）	・ 分布は800～1,900mの広い範囲をもち樹齢が高いものが多い。スギ林は雲霧帯にあり、着生植物（ヤマグルマ等）が多いのが一つの特徴
ヤクシマシャクナゲ・ヤクシマダケ群落 （屋久島町）	・ ヤクシマシャクナゲはスギ帯上部に分布し、スギ林の林床に多い。林床のものは花のつき方も疎であるが、林外のものには樹形がまとまり花つきも良い。ヤクシマダケの丈は低く、この群落には北方系の植物（南限）も見られる。	

区分	件名（所在地）	特 性
植 物	花之江河・小花之江河の高層湿原 （屋久島町）	・ 黒味岳の南に発達する日本最南端の高層湿原で、ミズゴケを基盤として小水路が走る湿原である。
	栗生のツキイゲ群落 （屋久島町）	・ 栗生川河口左岸に見られ、他のグンバイヒルガオ、ハマヒルガオなどと砂丘植生をなしている。もともと東南アジアの海浜植生として知られており、北限は屋久島と種子島
動 物	馬毛島のマゲシカ （西之表市）	・ 馬毛島にいる鹿で、わが国では、ヤクシカ、ケラマジカと並んで最も小型のものといわれている。固有亜種 ・ 平成24年8月28日、環境省が「絶滅の恐れのある地域個体群」に選定
	屋久島のヤクシマザルとヤクシカ （屋久島町）	・ 屋久島のみによくから生息し、学術上貴重な哺乳動物。近年、果樹やスギ苗などを荒らすため、有害鳥獣駆除の対象となっている。
	口永良部島のシカ （屋久島町）	・ ヤクシカと同一の種類とみられる。
	口永良部島のエラブオオコウモリ （屋久島町）	・ 国の天然記念物に指定されており、頭胴長が20cmで頸に黄金色の輪が見られるのが特徴 ・ 平成31年2月6日、環境省が「絶滅危惧 IA 類(CR)」に指定
	カラスバト （種子島、屋久島）	・ 日本産ハト類中最大で、国の天然記念物 ・ 長島から薩南諸島にかけて生息
	イイジマムシクイ （屋久島）	・ 夏鳥として伊豆諸島にも飛来し、冬は琉球列島を経てフィリピンに帰るウグイス亜科の国の天然記念物。屋久島、トカラ列島にも記録がある。
	アカコッコ （屋久島）	・ ツグミ科の日本固有種の鳥で、国の天然記念物 ・ 伊豆七島及び屋久島のほか、近年トカラ列島、黒島で見られた。 ・ 近年、屋久島での目撃事例はない。
	アカヒゲ （種子島、屋久島）	・ ヒタキ科の鳥類で、国の天然記念物 ・ 徳之島、奄美大島では留鳥、トカラ列島以北では夏鳥とされており、屋久島、種子島でも記録がある（トカラ以外でも確認されている）。
	アカウミガメ アオウミガメ （種子島、屋久島）	・ 日本近海で多くみられるウミガメであるが、環境省レッドデータブック絶滅危惧種に指定されている。 ・ 本県はわが国でも最も多くウミガメの上陸する地域で、吹上浜、種子島、屋久島などが重要な繁殖地。特に屋久島永田浜は上陸数日本一を誇る。
	ヤクヤモリ （種子島、屋久島）	・ 九州南部、種子島と屋久島にのみ生息する（日本の固有種）
	エラブウミヘビ （種子島、屋久島、 口永良部島）	・ 琉球列島や本土の黒潮の洗う地方に生息。屋久島、口永良部島にも多い。 ・ 種子島にも記録がある。 ・ 攻撃性はないが、コブラよりも強い神経性の猛毒をもつ。
	ヘリグロヒメトカゲ （口永良部島）	・ 小型のトカゲで硫黄島、竹島、黒島、口永良部島、トカラ列島及び沖縄のみに生息
	タイマイ （種子島、屋久島）	・ 熱帯、亜熱帯の海域で見られるウミガメで、本県の海域は幼体の生育海域。我が国では、新城島（沖縄県）が唯一の産卵地
	種子島の昆虫 （種子島）	・ 希少種として、ウラナミジャノメ（西之表市の内陸部、安城・古田地区で見られる）や、海浜性ハンミョウ（海岸周辺部で見られる）などがある。 ・ 近年、研究が進むにつれて、種子島固有の種も増えつつある。
	屋久島の昆虫 （屋久島）	・ 約3,000種の昆虫が生息し、分布南限種も多い。標高により、低地帯、山地樹林地帯、高地帯と3群に大別される。
	ツマベニチョウ （種子島、屋久島）	・ シロチョウ科では世界最大で、南西諸島に広く分布するが、種子島のシンボルの昆虫。食樹はギョボク。宮崎県が北限
ゲンジボタル （種子島、屋久島）	・ 本州、四国、九州に分布し、各地で環境の指標種として注目されている。 ・ 種子島、屋久島でも確認されている。	

区分	件名（所在地）	特 性
水生生物	ハナサンゴモドキ （種子島，屋久島）	・ 体内に褐虫藻を共生させている造礁サンゴの仲間。種子島と屋久島のための狭い範囲に分布。絶滅危惧 IB 類 (EN)
	タネガシマアマノリのタイプ産地（西之表市）	・ 食用海藻。種子島北東海岸に局地的に生育する。無性生殖による生育期間が周年にわたるため、一年中葉体が採集される。
	馬毛島周辺の海藻類 （西之表市）	・ 200 種以上の海藻が繁茂。黒潮の影響で亜熱帯性の海藻類が温帯性の海藻に混じり、新種・新産種が多数発見されている。開発による影響が懸念される。
	安房沿岸のハナヤナギ群落 （屋久島町）	・ 安房から麦生に至る沿岸一帯の大小の浅いタイドプール内に密生している。近年、このハナヤナギから特異な駆虫化学成分が発見され、話題を呼んでいる。
	栗生川のタニコケモドキ群落 （屋久島町）	・ 栗生橋から上流の、川幅のやや広い約 250m の流域陰所で生育している。水面よりやや浅所の岩石、古木、ヨシ等にビロード状に密生しほとんど周年生育が見られる。
	甲殻類 （種子島，屋久島）	・ 熊毛海域には、イセエビ、カノコイセエビ、シマイセエビ、世界最大の甲殻類タカアシガニ、日本最大の等脚類オオグソクムシ、カイロウドウケツの体内に生息していることで知られるドウケツエビなどが分布している。
	アカメ （種子島）	・ アカメ科の魚で和歌山、高知、徳島、宮崎、鹿児島島の各大河の河口域に生息する固有種。種子島南部が南限とされているが、希少
自然系	屋久島原生自然環境保全地域 （屋久島町）	・ 屋久島西南部小揚子川流域に属する花山一帯の標高 800～1,700m のスギ、モミ、ツガ、ヤマグルマを主とした原生林の区域である。 ・ 屋久島の温帯林は、スギ、ヤマグルマ等が優占する特殊なもので、広い面積にわたって生育し、スギは樹齢 1,000 年以上の老木も見られる。世界的にも貴重な原生林である。
	屋久島国立公園（屋久島島内指定区域） （屋久島町）	・ 九州最高峰の宮之浦岳をはじめ、1,000m を超える峰々が 45 座以上あり、優れた山岳景観を呈している。 ・ 植生は、冷温帯から亜熱帯植物帯までの垂直分布が見られる。 ・ 自生植物 1,275 種、屋久島固有の植物 23 種、推定樹齢 7,200 年ともされる縄文杉と呼ばれる大木をはじめ、樹齢 1,000 年以上のヤクスギが点在している。動物もツマベニチョウやヒメトンボ、ヤクシマエゾゼミなどの昆虫類、ヤクシカ、ヤクシマザルの哺乳類など多種多様な分布が見られる。
	屋久島国立公園（口永良部島地区） （屋久島町）	・ 屋久島の西北西約 12km に位置し、新旧二つの火山群が結合したひょうたん型の火山島である。海岸部は、切り立った海食崖や洞穴など変化に富んだ地形を有し、温泉の噴き出し、タイドプール、沖合には発達したサンゴ礁も見られる。 ・ 植物相は、557 種の分布が確認されており、マルバサツキ等の火山荒原植生、スタジイ等の照葉樹林が見られ、火山地形に広がる緑の景観から「緑の火山島」とも呼ばれている。 ・ 動物相は、環境省レッドデータブック絶滅危惧種 IA 類で国の天然記念物にも指定されているエラブオオコウモリの生息地となっている。
	世界遺産登録地 （屋久島町）	・ 国立公園や森林生態系保護地域の一部、屋久島原生自然環境保全地域と国指定天然記念物（屋久島スギ原生林）の全部などが重複している。 ・ 海岸線近くの照葉樹林帯から山岳部のスギ林帯、ヤクシマダケ高原帯までが含まれる。
	ラムサール登録湿地（永田浜） （屋久島町）	・ 北太平洋地域で最も高密度にアカウミガメの産卵が行われる海岸
	ユネスコエコパーク登録地 （屋久島町）	・ 屋久島と口永良部島全域が登録 ・ 核心地域と緩衝地域は屋久島国立公園、屋久島森林生態系保護地域、屋久島原生自然環境保全地域等に指定されている。 ・ 移行地域としては、豊かな自然と人が深く結びついた生活が営まれているということもあり、核心地域と緩衝地域以外の陸地のほか、島の沿岸の海域を設定している。

ふるさとの自然(各市町推薦)

区分	件名(所在地)	特 性
西之表市	喜志鹿崎灯台	・ 展望所
	浦田海水浴場	・ 砂浜, 海水浴, キャンプ場
	太田	・ ヘゴ自生群落
	天女ヶ倉	・ 展望所, ハンググライダー, キャンプ場
	鉄浜海岸	・ 砂鉄を含んだ海浜, サーフスポット
中種子町	犬城海岸	・ 洗洞窟, 奇岩, 釣場
	熊野海岸	・ 砂浜, 海水浴, メヒルギ群落, キャンプ場, マングローブ林
	長浜海岸	・ 砂浜, ウミガメの産卵, 釣場, サーフスポット(屋久津, 竹之川)
南種子町	門倉岬と前之浜	・ 海食崖, 砂浜, 鉄砲伝来の地, ロケット基地
	浜田海岸と千座の岩屋	・ 砂浜, 海食洞窟, 海水浴, ロケット発射場展望, ウミガメの産卵地
	竹崎海岸	・ 砂浜, サーフスポット
	種子島マングローブパーク(平山)	・ マングローブ群生地, カヤック乗り場
屋久島町	白谷雲水峡	・ 渓谷, 森林浴
	志戸子ガジュマル公園	・ ガジュマルの群生
	永田いなか浜	・ 砂浜, ウミガメの産卵
	千尋滝風景林	・ 高さ 60m の 2 段滝, 幅 400m 高さ 200m 岩盤, 展望台
	大川の滝	・ 高さ 88m
	安房川流域風景林	・ 松峯大橋(高さ 80m) から望む広葉樹林
	ヤクスギランド～ 紀元杉	・ 4 コースの探索歩道, 豊かな植生, 推定樹齢 3000 年のヤクスギ
	西部林道風景林	・ 植物の垂直分布, 海まで続く世界自然遺産地域 ・ 植物・緑のトンネル道 ・ ヤクシカ・ヤクシマサルが生息
	縄文杉	・ 幹周 16.4m, 樹高 30m のヤクスギの巨木
	宮之浦岳	・ 九州最高峰の標高 1,936m ・ 日本 100 名山の一つ

※参考：各市町のシンボル

	花木	木	鳥	花	蝶
西之表市	ブッソウゲ	アコウ	—	テッポウユリ	ツマベニチョウ
中種子町	フヨウ	ウバメガシ	—	ゲットウ	ツマベニチョウ
南種子町	サンダンカ ハイビスカス	ヤマモモ	—	—	—
屋久島町	—	屋久杉	ヤクコマドリ	ヤクシマシャクナゲ	—

資料：各市町

(6) 屋久島の世界自然遺産登録

平成5年12月に、屋久島は白神山地とともに我が国で初めての世界自然遺産に登録されました。屋久島の貴重な自然が、すぐれた普遍的な価値を持つ人類の遺産として世界的に評価されたものです。

なお、概要は次のとおりです。

ア 推薦理由

屋久島は中心部に九州の最高峰宮之浦岳（1,936m）をはじめとする高峰が聳える山岳島であり、世界的な動植物の移行帯に位置する湿潤気候下の高山として生物地理的に特異な環境下にあり、かつ年間4,000mm～10,000mmもの多雨に恵まれていること等から、樹齢数千年とされるヤクスギをはじめとして極めて特異な森林植生を有しています。

海岸付近のガジュマル、メヒルギ等の亜熱帯性植物から、タブ、シイ、カシ類等の暖帯、ナナカマド、ヤマグルマ等の温帯、更にヤクザサ、ヤクシマシャクナゲ等の亜高山帯に及ぶ植生の垂直分布が顕著に見られ、また多くの固有植物、屋久島を北限、南限とする植物が自生していること等特異な生態系を構成しています。

特に本地域の傑出した自然の特徴としては、樹齢数千年に及ぶとされる直径3～5mにも達するヤクスギがあげられ、老齢の巨樹林は生態的にも、かつ形態的にも世界的に貴重な天然林と考えられています。

さらに、当地域には、ヤクタネゴヨウ（県カテゴリー一絶滅危惧Ⅱ類、環境省カテゴリー一絶滅危惧ⅠB類）等絶滅のおそれのある動植物が生息、生育しています。

イ 登録地の面積

10,747ha（国有林10,259ha、県・町有地488ha）

ウ 登録地に係る保護制度

- ・原生自然環境保全地域
- ・国立公園
- ・特別天然記念物
- ・森林生態系保護地域

エ 世界遺産条約（世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約）

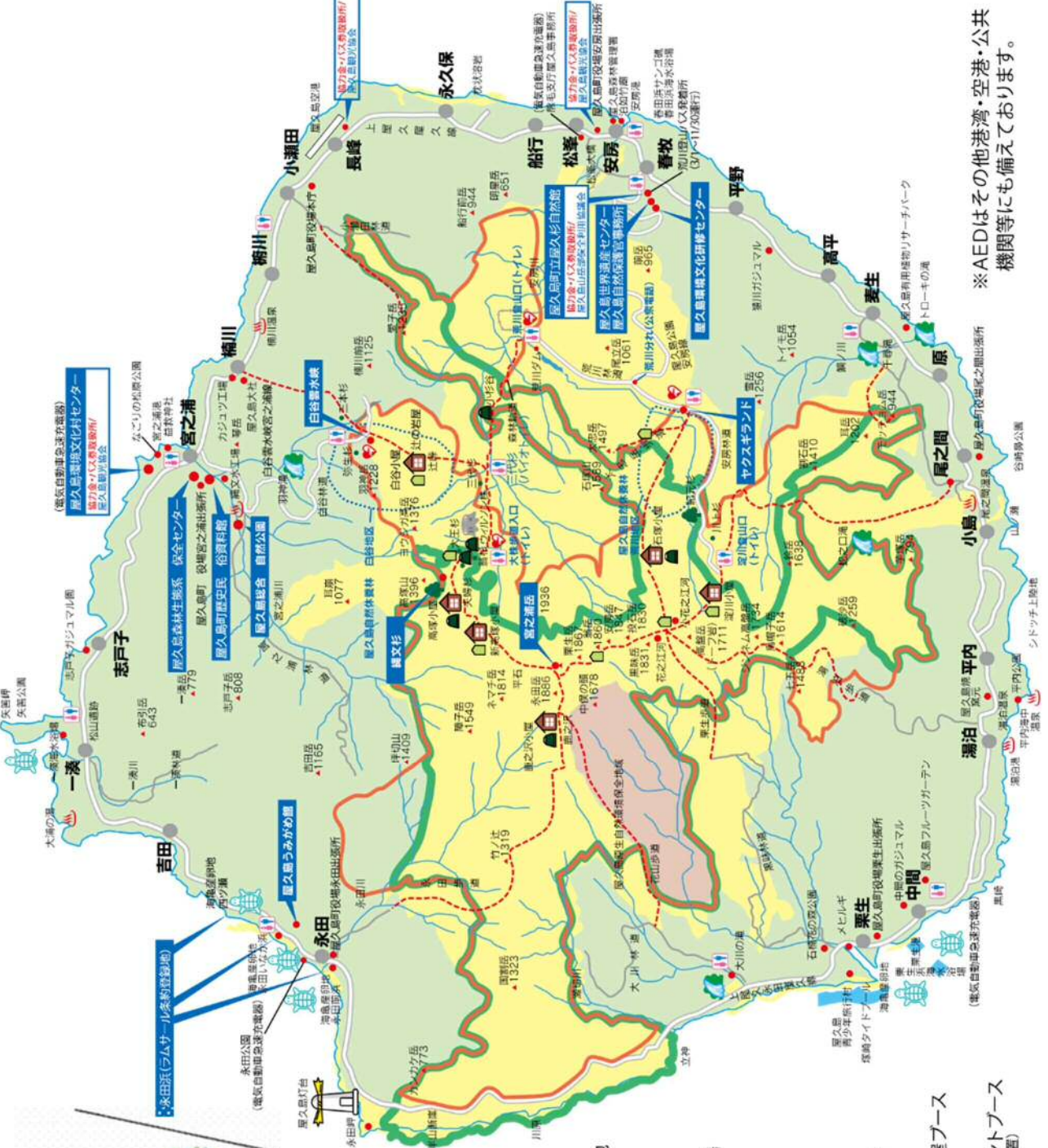
世界のすべての人に関係するようすぐれた普遍的な価値を持つ遺産を保護するために、その重要性を世界に呼びかけるとともに、国際協力を推進することを目的として1972年のユネスコ総会で採択されました。

締約国は、自国内の文化遺産及び自然遺産の保護に最善を尽くすことが義務づけられています。また、ユネスコに設置された世界遺産委員会が、締約国の提出する候補リストに基づき世界遺産リストを作成し、リストに記載された物件について、締約国の拠出金等からなる世界遺産基金を活用し保護のための援助を実施することになっています。

2019年7月現在、193か国が批准しており、グランドキャニオン国立公園やガラパゴス諸島など自然遺産213、複合遺産（自然遺産でもあり文化遺産でもあるもの）39、文化遺産869の合計1,121の遺産が登録されています。

オ 日本における世界遺産の登録状況

区 分	場 所	都道府県名	登録年月日
自然遺産 (4か所1都1道3県)	屋久島	鹿児島県	平成 5年12月
	白神山地	青森県, 秋田県	平成 5年12月
	知床	北海道	平成17年 7月
	小笠原諸島	東京都	平成23年 7月
文化遺産 (19か所1都2府22県)	法隆寺地域の仏教建造物	奈良県	平成 5年12月
	姫路城	兵庫県	平成 5年12月
	古都京都の文化財	京都府, 滋賀県	平成 6年12月
	白川郷・五箇山の合掌造り集落	岐阜県, 富山県	平成 7年12月
	原爆ドーム	広島県	平成 8年12月
	厳島神社	広島県	平成 8年12月
	古都奈良の文化財	奈良県	平成10年12月
	日光の社寺	栃木県	平成11年12月
	琉球王国のグスク及び関連遺産群	沖縄県	平成12年12月
	紀伊山地の霊場と参詣道	和歌山県, 三重県, 奈良県	平成16年 7月
	石見銀山遺跡とその文化的景観	島根県	平成19年 7月
	平泉－仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群－	岩手県	平成23年 7月
	富士山－信仰の対象と芸術の源泉	静岡県, 山梨県	平成25年 7月
	富岡製糸場と絹産業遺産群	群馬県	平成26年 6月
	明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼, 造船, 石炭産業	岩手県, 静岡県, 山口県, 福岡県, 熊本県, 佐賀県, 長崎県, 鹿児島県	平成27年 7月
	国立西洋美術館(ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－)	東京都	平成28年 7月
「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群	福岡県	平成29年 7月	
長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産	長崎県, 熊本県	平成30年 6月	
百舌鳥・古市古墳群－古代日本の墳墓群－	大阪府	令和 元年 7月	



※AEDはその他港湾・空港・公共機関等にも備えてあります。



- 登山歩道
- 滝
- ウミガメ産卵地
- 避難小屋
- 温泉・公衆浴場
- 主要車道
- トイレ
- AED設置場所
- 携帯トイレ建屋ブース
- 携帯トイレテントブース (3月~11月のみ設置)

(参考) 屋久島環境文化村

屋久島環境文化村マスタープラン（平成4年11月策定）は、自然と共生する新しい地域づくりを目指すことを目的として、地域の自然環境の保全活用の基本方向を示すとともに、屋久島にかかる多様な事業実施の過程での考え方や原則を示す役割を果たすものです。

屋久島にかかわるすべての人々を対象としているとともに、国、県、町の既存の計画や事業、今後、新たな各種の行政計画の策定にあたっては、整合性が図られるべきものです。

1 屋久島環境文化村マスタープランの概要

(1) 基本理念

自然環境の保護と地域振興の同時解決をめざし、その根拠を、屋久島の自然の傑出性と歴史的に形成されてきた人と自然とのかかわり（環境文化）に求めます。

環境文化村は、自然と共生する新しい地域づくりをめざす試みです。

(2) 地域形成の枠組（環境文化村の基盤）

ア 自然環境保全活用の基本方針

屋久島の自然環境を保全しつつ活用し、屋久島の自然の秩序を再構築するため、次の3つの地域区分を行い、自然利用活動のあり方の指針にするとともに、施設整備や土地利用秩序の方針を示しています。

- A 保護ゾーン～原生的な自然と信仰や畏敬の対象としての奥岳を中心とする地域
- B ふれあいゾーン～生態系を保全しつつ一定の枠内で人間活動が行われる地域
- C 生活文化ゾーン～豊かな生活文化が育まれる前岳から集落及び県道周辺までの地域

イ 屋久島の観光に関する方針

- ・観光入り込み客の急激な拡大という趨勢の転換を図り「環境文化」に基づく新たな観光の創造をめざします。
- ・屋久島の自然生態系を維持しつつ利用していくため、特定地区への過度の集中を避け、複数の利用拠点への分散を図ります。
- ・入り込み客の量的な拡大はできるだけ抑え、利用の質的転換を促すような多様なふれあいの場等を整備します。

2 環境文化村づくりの事業

環境文化村を実現していくための戦略的かつ具体的な提案として、次の5つの視点に基づく事業群があげられます。

(1) 環境学習・研究施設の整備

島全体を人と自然とのかかわりを学ぶ環境学習のフィールドとして整備し、同時に島内外の交流の場や環境学習プログラムの整備を進めるため、拠点として環境学習中核施設を整備します。（屋久島環境文化村センター・屋久島環境文化研修センター平成8年7月開館）またこれを中心に、新設あるいは既設の関連施設との連携を図り、それぞれ

の特性を生かしながら、情報提供、案内・展示、交流、研修施設等としての活用を進めます。

(2) 環境形成事業の展開

ゾーニングに基づく保全活用方針を前提に、自然環境保全のための適切な管理や、活用のために必要な基盤整備を行い、個性的でトータルな環境形成を図ります。また、観光利用等において量と質の調整を図るため、特定の地域への過度の集中を避けるしくみづくりを行うとともに、自然利用の拠点となる施設整備により、利用の分散化と利用地域としての奥行きづくりに取り組みます。

生活空間においては、ゆとりやうるおいのある環境づくりと、それを通じて来訪者の屋久島へのイメージを高めるためにも、景観形成に配慮しつつ、環境保全と整合するインフラの整備を行います。同時に、環境にやさしい生活様式の実現に向けての住民自身の取り組みを促進するなど、社会条件の整備を進めます。

(3) ボランティア協力事業の推進

環境文化村を運動として展開しつつ事業を積み重ねていくために、島民、来訪者、研究者など屋久島に関係する全ての人々が、あらゆる分野でそれぞれ可能な範囲において協力できるよう、参加しやすい仕組みづくりと、関係者や関係組織をつなぐネットワーク整備を行います。環境文化村の運営にあたっては、このような事業を含め資金、人、情報等の蓄積を進めながら柔軟に多様な活動に対応していける体制が必要であり、その中心を担う組織として屋久島環境文化財団を設立します。(平成5年3月設立)

(4) 新たな地域産業の創出

環境文化村は、地域の個性を引き出すことをねらいとするとともに、それ自体で情報発信力を持つプロジェクトであります。見いだされた個性を付加価値とし、情報発信力を活用しながら商品づくりに生かし、それを環境文化型の産業おこしに結び付けて行きます。とりわけ1次産業については、環境文化村ブランドを軸にした付加価値化や新たな需要の創出のほか環境学習やエコツアーの一環としての生産体験の場、農地や森林の維持、保続、管理や景観の保全といった役割を担うことを通じて新たな可能性を追求することとします。また、将来に向けて、環境に負荷の少ない暮らしや産業を支えるための技術開発や装置の開発が新しい産業分野として成長してくる可能性が大きいといえます。環境文化村は、地域の環境形成に対して先導的役割を担うことが求められており、こうした新しい産業を育てる場として適していることから、島が「環境産業」のメッカとなり、関連産業の広がりをつくり出す場となることをめざします。

(5) 国際交流の展開

屋久島の自然が世界遺産としての価値を持つことや、環境文化村のテーマが外国人アンケートに見られるとおり国際的にも関心と呼ぶ可能性をそなえている点を活かして、国際的視点から屋久島の位置づけを明確にし、海外を含めて屋久島環境文化村に関心を持つ人々との交流を図るため、定期的イベント開催等のしくみづくりを行います。

また、環境文化村の重要なコンセプトの一つは、自然と人間のかかわりのあり方を、広く現代社会に問いかけるという点にあることを踏まえ、自然生態、生活文化や民俗、

環境保全等屋久島と環境文化村が発する多様な情報を、全国や世界に向けて発信するしくみをつくります。その一環として、平成12年5月に世界自然遺産を有するアジア太平洋地域の自治体が一堂に会し、世界自然遺産の保全とそれを生かした地域づくり

について論議を深める「世界自然遺産会議」を開催しました。情報発信は、地域づくりの上でも戦略的な意味を持つ重要な課題であり、環境形成事業や地域産業の振興と連動させていきます。

3 屋久島環境文化村実現のために

(1) 屋久島方式のすすめ

屋久島の自然と歴史・文化、そしてその根底にある「共生と循環の原理」に関して幅広い人々の間に共通の意識を拡大していくこと、それが屋久島環境文化村の一つの側面です。その場合、当然ながら地域の人々の主体性が前提条件になります。したがって計画立案から事業実施まで、地域ぐるみでかわり、さらに島外の人々をも巻き込むダイナミズムを維持しつつ、実現する、いわば「屋久島方式」とでも呼ぶべきあり方を追及していくこととします。

(2) 屋久島環境文化村推進のために

この構想を実現していくには、国、県、地元町、地域住民や国際的關係までも含めた、個人や組織等との有機的な連携が不可欠であります。全体を進行管理する主体として、鹿児島県及び屋久島環境文化財団の果たす役割が重要になります。さらに、地元研究会を地域での推進主体として、新たに組織し直すことが重要であります。そしてこれらの体制や組織は、これまでの計画策定にあたってそうであったと同じく、常にあらゆる人々に開かれたものであることが必要となります。

以上のうち、島全体を対象とした環境学習を先導的事业として位置づけ、環境文化村構想実現のために展開される多様な事業を推進するための拠点として、屋久島環境文化村中核施設を整備しました。中核施設の管理運営は、県から指定管理者の指定を受けて屋久島環境文化財団が行っています。

○ 屋久島環境文化村中核施設

1 屋久島環境文化村センター

(1) 施設の位置づけ・機能

- ア 屋久島の自然、文化に関する情報提供（インフォメーション機能）
 - ・ 気象、地象、動植物相、風土、歴史、文化など
- イ 環境学習の普及、推進（ゲート、オリエンテーション機能）
 - ・ 情報収集、広報誌、講演会、活動支援、案内など
- ウ 地域内外を結ぶ交流（ロビー機能）
 - ・ 情報の受発信、特産物の販売、活動への人的サポートなど
- エ 環境文化村構想推進の核（センター機能）
 - ・ 財団事務局、各施設の紹介・共同企画の実施、情報誌の提供など

(2) 概要

- ・ 所在地：鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦 823 番地 1
- ・ 敷地面積：約 6,300 m²
- ・ 延床面積：2,700 m²

- ・ 構造：鉄筋コンクリート造り，一部鉄骨造り地上2階・地下1階
- ・ 主要施設
 - 大型映像ホール
 - 大型映像スクリーン（20m×14m）収容人員 250 席， 1 日 8 回程度上映
 - 展示ホール
 - 吹き抜け空間に螺旋状スロープを設けたホール
 - レクチャー室，物産コーナー，喫茶コーナー，観光案内所

(3) 延入館者数

- ・ 1,654,781 人（平成 31 年 3 月末）

2 屋久島環境文化研修センター

(1) 施設の位置づけ・機能

ア 環境学習の推進及び人材の養成（研修機能）

- ・ 自然，風土，歴史，文化など環境学習に関する研修
- ・ ガイド，インストラクター等人材養成のための専門研修

イ 研修参加者相互の語らいの場（交流機能）

- ・ 研修参加者相互のコミュニケーションの場
- ・ 屋久島に関わりのある人や研究者も含めた交流の場

ウ 研修参加者を対象にした宿泊提供（宿泊機能）

- ・ 研修参加者に対応する宿泊室等のサービス提供

(2) 概要

- ・ 所在地：鹿児島県熊毛郡屋久島町安房 2739 番地 343
- ・ 敷地面積：約 20,000 m²
- ・ 延床面積：2,800 m²
- ・ 構造：木造，一部鉄筋コンクリート造り地上2階
- ・ 主要施設
 - キャンプサイト
 - 研修専用のキャンプ施設
 - 視聴覚室
 - 各種AV機器を完備
 - 宿泊室（定員 40 名），レクチャー室，自然ライブラリー

(3) 延入館者数

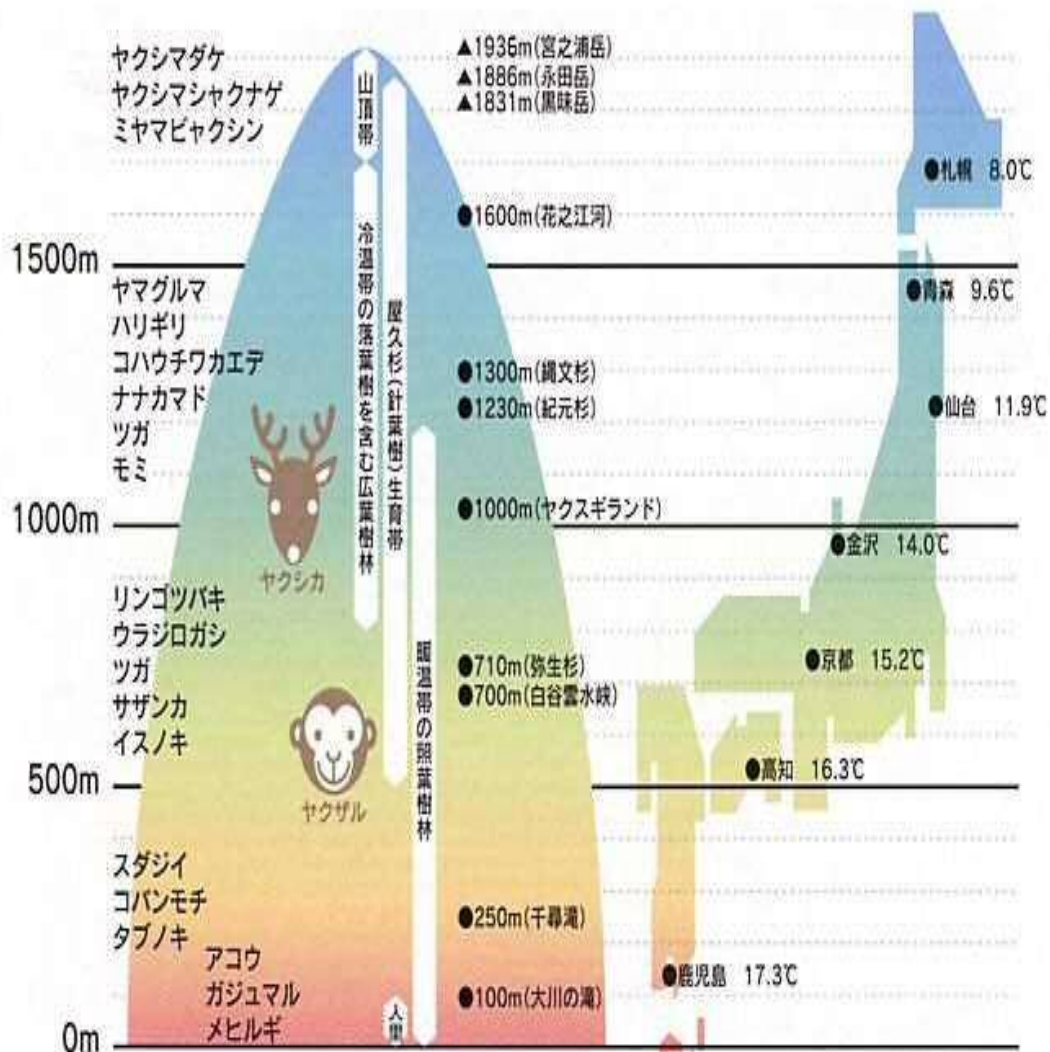
- ・ 174,757 人（平成 31 年 3 月末）

3 屋久島環境文化財団

環境文化村の運営にあたっては，資金，人，情報等の蓄積を進めながら柔軟に多様な活動に対応して行ける体制が必要であり，その中心になる組織として，屋久島環境文化財団を設立しました。この財団は，鹿児島県，地元町，民間の協力の下に設立され，具体的な事業内容としては，中核施設の管理運営，環境学習プログラムの企画立案，機関誌の発行，環境保全活動の普及・啓発等を行います。

- ・ 設立：平成 5 年 3 月 4 日
- ・ 基本財産：約 8 億円（平成 31 年 3 月末）

屋久島の植物垂直分布模式図



資料：屋久杉自然館ビジュアルテキスト「屋久島の自然」